

善隣

No.512 通巻779

2020年（令和2年）2月1日発行（毎月1日発行）

2020

2



一般社団法人 国際善隣協会



新会員歓迎懇親会（2019年11月28日）



消防訓練（2019年11月21日）

善 隣 目 次 2020年 2 月号

公開講演会記録

デザイン—その領域の拡大と経営・ リーダーシップ・イノベーション	大井 篤	2
中国など主要国のアフリカへの直接投資について	郭四志	10
高齢者の睡眠学	高橋清久	19

さくらびと

公害の町、日立市がなぜ桜の里になったか？	細川呉港	24
----------------------------	------	----

陶々俳壇	馬場由紀子選／橋本紅杓	29
------------	-------------	----

中国ウォッチング	編・訳 上松玲子	30
----------------	----------	----

協会通信・同好会だより		32
-------------------	--	----

2020年2月の行事予定		33
--------------------	--	----

みんなの写真館		32
---------------	--	----

(姜晋如、雨宮 武)

善 隣 第512号 通巻779号

2020(令和2)年2月1日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5

一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03(3573)3051

FAX 03(3573)1783

発行人 矢野一彌

印刷所 (株)ゆにおんプレス

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

当協会は、中国ならびに近隣諸国との相互理解を深め、友好親善・交流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

公開講演会記録

デザインーその領域の拡大と経営・ リーダーシップ・イノベーション

公益財団法人 日本デザイン振興会理事長 大井 篤



本日は、近代デザインの潮流を概観しながら、近年デザインの領域が拡大し、リーダーシップやイノベーションひいては企業経営そのものにも深く関わっていることについてお話させていただきます。

1. 近代デザインの始まり

近代デザインの始まりとして、アーツ&クラフツ運動とバウハウス (Bauhaus) について触れます。

アーツ&クラフツ運動は、イギリスの詩人、思想家、デザイナーであるウィリアム・モリス (1834～1896) の主導した美術工芸運動です。

ウィリアム・モリスは、産業革命によって「美」を喪失した粗悪品が大量に出現

したことにより危機感を覚え、「古き良き時代の熟練職人による質の高い工芸品に回帰しよう」という運動を起こしました。

これが、アーツ&クラフツ運動です。

生活と芸術を一致させていくというアーツ&クラフツ運動は、日本でも柳宗悦 (1889～1961) の民芸運動に大きな影響を与えました。

バウハウスは、1919年ドイツのワイマールに設立された、工芸・写真・デザインなどを含む美術と建築に関する総合的な教育を行った学校です。ナチスにより1933年に閉校されるまでのわずか14年間しか開校されませんでした。現在の美術やデザインに大きな影響を与えました。基本的には合理主義・機能主義であり、大量生産をベースとしたイン

ダストリアルデザインとの親和性が高く、大きな影響を与えました。

2. インダストリアルデザインの始まり

自動車をはじめとする工業生産がますます発達して行くに伴い、工業製品に積極的にデザインを持ち込む動きが始まりました。

インダストリアルデザイン初期の代表格として、レイモンド・ローウィ (1893～1986) とヘンリー・ドレフュス (1904～1972) の2人を紹介します。

●レイモンド・ローウィは、口紅から機関車まで実に様々な分野で活躍したデザ

イナーです。彼は、日本でもたばこのピー
スのデザイン（オリブの葉をくわえた
鳩）をして、1952年当時150万円
のデザイン料として話題になりました。
レイモンド・ローウィが提唱したデザ
インの極意は、「Most Advanced Yet
Acceptable（受け入れられる限りギリギ
リの先端であれ）」というもので、デザ
インによる新しい需要の喚起を狙って
いました。

最も象徴的なデザインは流線形の蒸気
機関車で、その後自動車などの設計に大
きな影響を及ぼしています。

●ヘンリー・ドレフュスは、誰もが目
にしたことがある黒電話を始め、インダ
ストリアルデザイン創世期において傑作を
数多く残したインダストリアルデザイナー
です。彼は人間工学的アプローチによる
設計やユーザーリサーチに基づいたデザ
インの基礎を築いたデザイナーです。

彼は「human factors and ergonom-
ics」という、使い勝手や快適性など、
ユーザーの様々な人間的要素に基づいた
設計思想を提唱しました。現在の「人間
工学設計」や「人間中心設計」の大本と
なる概念です。

●日本でも戦後まもなく、産業振興、輸
出振興の観点からデザインが重視され、

官民において積極的な展開が見られまし
た。今や8割近い国民が認知しているグッ
ドデザイン賞も1957年に創設されま
した。

当時のデザインに対する熱意は、財界
出身で外務大臣まで務めた藤山愛一
郎（1897～1985）がローウィ
の著書を『口紅から機関車まで』として
翻訳出版したことからうかがえます。

1951年 松下電器産業が製品意匠課
設置

1952年 産業工芸試験所設置、日本
インダストリアルデザイナー

協会設立

1953年 東京芝浦電気が意匠課設置

1956年 特許庁内に「意匠奨励審議
会」を設置、「工業デザイ

ン・アメリカ視察団」派遣、
アートセンター・工業デザ
イン講習会実施

1957年 「グッドデザイン商品選定
制度」創設

3. デザインの本質

アーツ&クラフツ運動、バウハウス、
ローウィ、ドレフュスとたどってきた近
代デザインの潮流を整理すると、図1の

ようになります。

これから導き出されるデザインの本質
は、「ユーザーの動機や行動（幸せ）を
ベースに物事を組み立てる」ことだと思
います。

最近私自身は、「デザインは本質を可
視化するもの」とか「デザインは人のた
めの優しい知恵」という言葉にも惹かれ
ています。

図1 Designの本質

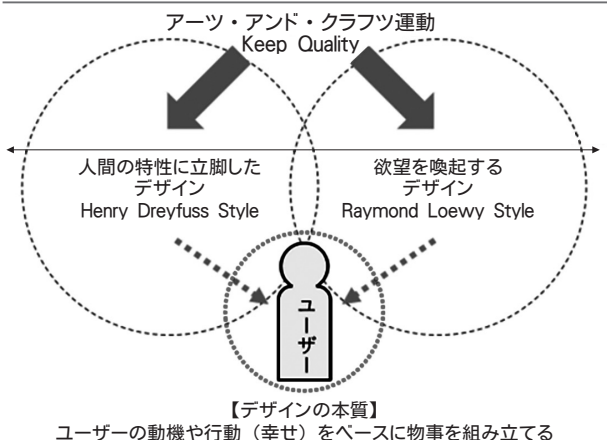
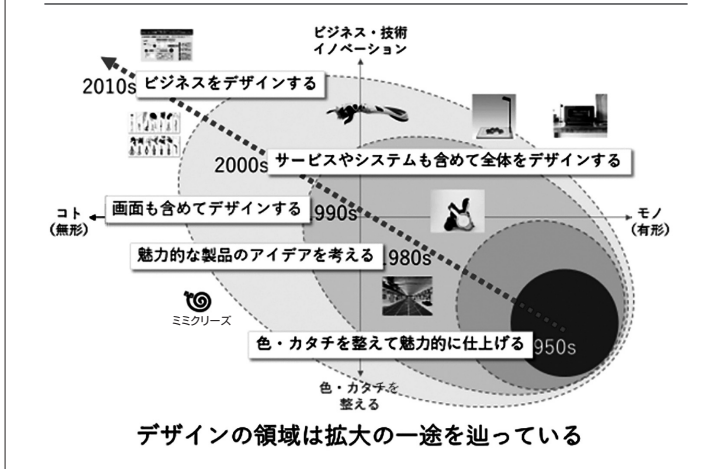


図2 デザイン領域の拡大



4. デザイン領域の拡大

60年を超える歴史を持つグッドデザイン賞の最近の受賞アイテムを図上にプロットすると(図2参照)、「モノ(有形)」のみならず「コト(無形)」そして「色・カタチを整えて魅力的に仕上げる」だけでなく、「ビジネス・技術イノベーション」

ン」領域まで広範囲に及んでいることがわかります。

近年、デザインの持つ課題解決能力に対する国民の関心が高まり、全国津々浦々の実に多くのデザインの担い手が課題解決型デザインにチャレンジしています。また多くの若い人々がスタートアップ・ベンチャーの起業に大きな関心を寄せており、グッドデザイン賞の受賞を契機に大きく飛躍する例も年々増えてきています。

かつては、「モノ」であって「色・カタチの美しいもの」がグッドデザインの中心でしたが、時代が進むにつれ「コト」そして「ビジネス・技術イノベーション」領域にわたって拡大してきています。

5. Design Thinking とデザイン経営

近年デザインの領域はいっそうの拡大を見せ、企業経営や行政の分野にも Design Thinking (デザイン思考) の導入が注目されてきています。

①「Design Thinking」

アメリカカリフォルニア州のデザインコンサルティング会社IDEOのCEOであるティム・ブラウン(1962～)は、2008年の『Harvard Business Review』

誌に「Design Thinking」を発表し、Design Thinking がクリエイティブティビーやイノベーションに不可欠になってきていることを示しました。

(「Design Thinking」抜粋)

●顧客視点に立って、正しい革新的な「問い」を見つけることがデザイン思考の真骨頂。ビジネスリーダーは、「クリエイティブ・コンフィデンス」を持つ必要がある。クリエイティブ・コンフィデンスとは、新しいアイデアを生むクリエイティブティビーに加え、それらを実行に移す勇氣のこと

●歴史的に、デザインは開発プロセスの下流工程として取り扱われてきた。イノベーションの本質的な役割を担う前のそれらの役割は、ただの「見た目を綺麗に整える役」でしかなかった

●そのアプローチは新しい美しく魅力的なプロダクトや技術を生み出し様々な分野でマーケット成長を促したことは間違いない。それらは広告やコミュニケーション戦略において消費者の欲望を喚起させ、ブランド価値を高めていった

●ビジネスやテクノロジーのことを考えた場合、イノベーションは人間の動機や欲求、選好などに因数分解することができる。人間中心なデザイン思考

は（参与観察などの調査が含まれている場合は特に）全く予期していなかった発見や消費者の欲求を正確に反映したイノベーションを生み出す

② デザイン経営宣言

2018年5月23日に経済産業省と特許庁は『「デザイン経営」宣言』を発表しました。

同宣言において、デザイン経営の効果としてブランド力向上とイノベーション力向上を挙げ、これらが企業競争力の向上の要としています。

また、デザイン経営のための具体的取り組みとして、以下を掲げています。

- デザイン責任者（CDOなど）の経営チームへの参画
- 事業戦略・製品・サービス開発の最上流からデザインが参画
- 「デザイン経営」の推進組織の設置
- デザイン手法による顧客の潜在ニーズの発見
- アジャイル型開発プロセスの実施
- デザイン人材の採用及び育成
- デザインの結果指標・プロセス指標の設計を工夫

私自身このデザイン経営宣言は、20年ぐらい前に出すべきだったと思っています。サムスンやLGは、1990年代の初

頭に既にデザイン経営が重要であることを認識し、その後の国際マーケティングにおいて大きな地位を占めるに至っています。

近年、中国が国家レベルでデザインの戦略的意味を認識し、様々なデザイン振興政策を打ち出していることは周知の事実です。

③ 神戸市の取り組み

ユネスコデザイン都市の神戸市は2019年度の職員採用試験から、大学卒と高専・短大卒の採用枠にデザインや美術、音楽、映像など芸術分野を学んだ人を対象にした「デザイン・クリエイティブ枠」を新設しました。入庁後は行政事務全般に従事するとのことでした。

久元喜造神戸市長は、「目的は人材の多様化。グローバルな見地から個性がありデザインの面でも注目される政策を展開しなければならない」と語っています。

Design Thinking が地方行政においても注目されてきている例だと思います。

6. 何がこれからの時代に求められるか

政府は、これから超スマート社会のコンセプトをSociety5.0 (<https://www.gov-online.go.jp/cam/s5/>) として発表

しました。IoT、ビッグデータ、AIなどの飛躍的進展により社会は大きく変化していくでしょう。そのような時代だからこそ、重要な意味を持つものは何かを考えてみたいと思います。

以下は全くの個人的見解ですが、いずれも広い意味におけるデザインやDesign Thinking に関係しています。

① AIで対応できない人間としての総合力

AI時代だからこそ、AIにできないこと、非合理、アルゴリズムのないものが逆に注目されると考えられます。要は目的合理的なものからの離脱が顕著になるのではないかと思います。

近年、AIによって多くの仕事が奪われるのではないかと懸念が、様々なメディアを通じて頻繁に論じられています。Technological Singularity（汎用人工知能の性能が人類の能力を超える時点）がその代表的な論点です。

私は違う考えを持っています。AIは少なくとも何らかの計算ができるものについては迅速な答えを出すことができると思いますが、計算対象が無限なものについては果たして有効な答えが出てくるのでしょうか。私たちの身の回りに起こっている様々なモノ・コトはそれほど単純

ではないし、そもそも計算できる領域は極めて小領域に限られるのではないでしょう。か。「幸せとは何か」とか「生きがいは何か」をAIが計算して答えを出してくれるのでしょうか。

また、例えば医師に代わってある患者やその家族にAIが「余命3か月の確率が85パーセント」と回答したところで、患者本人や家族にとってそれで十分なのでしょうか。この場合の医師の役割は、AIの出した結論を踏まえながら、患者やその家族の状況を総合的に把握し、家族とともに患者が幸せな終末を迎えるために、どのような治療を施し、どのような言葉をかけていくかが問われる時代になっていくのではないのでしょうか。

弁護士にとって最も重要な能力は、クライアントの状況や要望を十分に把握することだと思います。不十分な情報で裁判に向かっていても負けてしまいます。通常は自分に不利になる事実はなかなか語りたがらない中、それを聞き出すにはAI的ではない能力が必要に思えます。

本格的なAI時代を迎えると、記憶力を中心としたIQよりも人格、ホスピタリティ、創造力、指導力など人間としての総合力が際立って重要になってくるのではないのでしょうか。

伝統的な意味における知識や学力がますますコモディティ化していく中で、教育も知識重視から経験重視、感じる力の涵養に舵を切ることになるのではないのでしょうか。

②人間中心的な世界観の変化

生命科学の飛躍的發展に伴って、地球に誕生した様々な生命を遺伝子解析などの手法で客観的に分析できるようになってきました。

人間自身についても、万物の霊長などという人間中心的な見方が問われているのではないのでしょうか。果たして生存ということに関して人間は賢いのでしょうか。

「生物」が生きて延びてきたのは、賢いからでも強いからでもなく、いち早く自然環境に適合するよう自らを進化させてきたからであり、決して自らに適合するように自然環境を変化させてきたわけではありません。生命にとって最も重要な「生存」ということに関し、果たして人類は賢いのでしょうか。

遺伝子の中に組み込まれている情報の大部分は「生存」に関わることに占められており、万物の霊長である所以の遺伝子情報は極めて限られた部分を占めるにすぎないと思います。ちなみに人間の遺伝子は、人同士で99・9%のシンクロ率、チンパンジーとは99%、ネズミで

さえ97%、ミミズでも75%がシンクロしているとの計算もあります。

知的な分野でも瞬間記憶力でみれば京大生もチンパンジーにかなわないという話を山極壽一京都大学総長から聞いたことがあります。

他の生物との関係で人間をますます相対的にみる見方が広がり、人間社会そのものの有り様が大きく変化していくことが予想されます。

③Locality（地場特性）の追求

今後情報通信の飛躍的進歩によって、ますます時代はグローバル、ユニバーサルな方向に進んでいくと思います。そのような方向に時代が進めば進むほどLocalityが光ってくるのではないかと思います。

Localityは、それを徹底的につき詰めていけば、universality（普遍性）に通じるのではないのでしょうか。

陶工である富本健吉氏は、「模様から模様を作らず」と語ったと聞きました。

富本健吉は、例えば、竹を表現しようとする場合、古今東西の竹の表現を図鑑やインターネットで調べても、決して人を感動させる作品はできない、他人の手による竹の模様（デザイン）からは人を感動させる竹の模様はできない、自分で竹林に入っってじっくり観察して強く心に

感じたものを表現してこそ、人の心を捉える作品ができるのだということを言っているのでしょう。

日本の江戸時代の浮世絵が、それまでシムメトリーと黄金分割が美の基本原則だった西洋美術に与えた衝撃は計り知れないものでした。当時うどん一杯の値段で買えた浮世絵は *locality* に徹していたが故に、*universality* を獲得したのです。

近年、工芸に限らず、芸能、製品、サービスなどで日本の *locality* の極みともいふべきものが *universality* に通じている事例が多くなってきました。日本の *locality* に溢れたアニメ、J・POP、食文化、酒類、旅館、伝統工芸品、宅急便サービスなどが世界的にも注目されています。

7. リーダーシップ・イノベーション

これからの企業や様々な組織において、リーダーシップやイノベーション力がますます重要になります。かつての追いつけ追い越せの時代のように明確にターゲットがあり、そのターゲットに近づけることが目的であった時代は、言わば「答のある設問の時代」ともいえます。「答」を得るための知識吸収力が企業にとって

重要であり、「答」のある設問にしっかりと答えられる人材が重宝がられました。しかし今や、「問」を自ら作らなければならぬ時代になってきています。おのずと求められる人材も異なってきます。

① 危機管理

リーダーにとって最も重要な役割は危機管理だと思います。会社や組織を揺るがすような事態になったときの舵取りを誤ると会社や組織自体の存続さえ危ぶまれる事態になります。

重要事態であればあるほど、トップ自らが矢面に立たねばなりません。

危機管理の要諦は何かを考えるにあたって、皆さんも良くご存知の典型的な事例を紹介します。

2014年4月に起こったセオウル号転覆沈没事故と2009年1月に起きたUSエアウェイズ1549便のハドソン川への不時着水事故です。

前者は300人を超える死者を出した大海難事故です。後者は真冬のハドソン川に旅客機が不時着水した事故で、乗客や乗組員が全員無事に救出され当時「ハドソン川の奇跡」と言われました。セオウル号の船長は事故発生に際して的確な指示を出さないうまま、船を離れてしまいました。他方、USエアウェイズ154

9便のサレンバーガー機長は、管制官とのやり取りの音声を聞いても実に落ち着いて対処し危機を脱しました。

首相特別機の機長や湾岸戦争時における日本人救出機の機長などを務めた元日本航空機長で航空評論家の小林宏之氏は、パイロットの危機管理の要諦として以下をあげています。

- 感性を磨くことにより危機に対する気づきのセンスが向上する（「はっと驚く心」、「素直に感動する心」を保つことが危機対応センスに結びつく）

- フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションが重要。五感をフル化に使ったコミュニケーション（トラブル、事故、不祥事の要因のほとんどがコミュニケーションの不具合が関与。電話やメールでは十分伝わらないことに要注意）

- 新人も中堅もベテランもそれぞれ初心即ち謙虚な心や畏れの心を失わないこと（中堅、ベテランはこの点特に要注意）

- 危機管理の基礎は健康管理とセルフコントロール（当たり前前のことほど大切）
- 愚直なまでの基本・確認の徹底（世の中で起きている不祥事・トラブルは実に単純なことが原因）

- 平時においては完璧を目指すも、非常時には一番大切なものを以外は捨てる覚

悟が重要（危機管理は一番大切なものを守るマネージメント）

これらは、企業・組織経営にとっても同じことだと考えます。セオウル号の船長は平時に緊急事態の対応方法を聞かれたらすらすらと答えられたでしょう。知識と具体的行動は別次元の問題かもしれませんが。危機管理の要諦には Design Thinking が見え隠れしています。

② ビジネスイノベーション

日本経済について、しばしば「失われた20年」、「停滞の20年」などその長期停滞を懸念する論調をしばしば耳にします。

日本経済の長期停滞傾向は様々な要因が絡んでいるのですが、イノベーション力の低下も大きな要因ではないかと思っています。

世界市場を席巻しているアメリカ発の GAF A（グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン）や中国発のアリババ、 Tencent など若い人材がビジネスイノベーションを起こした企業群が世界の時価総額ランキングの上位を占めています。

先にお話した追いつけ追い越せ型人材とイノベーション人材とはかなり異なる人材群ではないかと思えます。

イノベーションにとって重要なファクターをキーワードで示すとすれば、次の

様なものです。

- 多様性
- 異能
- 感性 (art and sense)
- 知識だけではだめ (インターネット社会)

● 本物を見抜く力 (手っ取り早く入門書を読んでも役に立たない)

● 既存ビジネスモデルの組み合わせからはビジネスイノベーションは生まれず組織文化を変えるには、人を変え、プロセスを変え、場所を変える

単純化していえば、ビジネスイノベーションは、科学と技術に感性 (art and sense) が結び付いたときに起きると考えられます。

パナソニックの長榮周作会長は、何年か前になりますが、新聞紙上で次のように語っていました。

「この数年厳しい経営環境が続き、大きな投資を控えてきたため、知らないうちにリスクを取らない風潮が生まれてきた。ここからは反転攻勢で、チャレンジする人材を以前にも増して登用していくつもり。心身ともにタフで夢に向かって突き進むような人材が必要」。

「日本の製造業にとって、新興国、途上国攻略が今一番急がれている。そうし

た場所で活躍できる人材が必要。求められる資質は語学力だけではない。異文化を理解し、語彙を超えたコミュニケーション能力、人脈、情報などのネットワークキング能力などを持ち、それらに基づいて、それぞれの市場で顧客が求める商品のアイデアを生み、企画化、商品化していく力、世界にいるライバルに勝っていくという意欲、そして何か尖ったものを持っている人を求めている」。

「今までの事業の枠組みでは採らなかった異能、異才こそ企業に変革を起こすカギを握っている。ロケットを打ち上げるわけではないが、宇宙工学や物理専攻の人材も採りたい。その他、バイオ、医学なども迎え入れたい」。

「日本の電機業界の復活に必要なのはやはり人材だが、秀才だらけの企業にはチャレンジや突破力もない。大企業の硬直性を打ち破る、しなやかでしたたかな若者をひきつけ、活用できる企業になることが復活の条件」。

③ これからのリーダー像

リーダーを大まかに分類すると、目的意識型（真面目な異端）、髪振り乱し型（優等生だが結果的に不真面目）、超然型（優等生だが結果的に不真面目）、先延ばし型（リーダーには不適格）に分かれます。

先延ばし型はとてもリーダーの素質があるとは言えず、会社や組織のためには一刻も早く排除しなければならぬ人材です。重要なことは、髪振り乱し型人材と超然型人材をいかに目的意識型人材に誘導していくかです。

ここから一歩進め、Design Thinkingを加味して次世代のリーダーについて考えてみたいと思います。

目的意識型リーダーに共感性、統合型思考、樂觀主義、経験主義、共創といった Design Thinking Mind のエレメントを加えると次世代型リーダーである目的発見型リーダーが見えてきます。

「山主たる者は、知慮深く、外貌は甚だ愚に、行状は放蕩にして、内心は甚だ儉に厚く、施を好みて勘定高く、勇豪にして甚だ涙もろく、衆の樂を樂しみ衆の憂を憂ひ、慈悲甚だ深くして罪あるものを赦すことを好み、己は諸事の要ばかりを握りて、人に任せて人に骨を折らせ、氣に入りの人と云ふも無く、氣に入らぬ人と云ふもなく、兎に角に人々悪事を行ふことの絶えて出来ざる様を専ら務べし、また役人を撰ぶには思慮深く情けの熱きを第一として、容貌言語の間に可笑味のある人を良とす、才知優れたりと言へども苦味・辛味多き愛想の無き人物は、勘

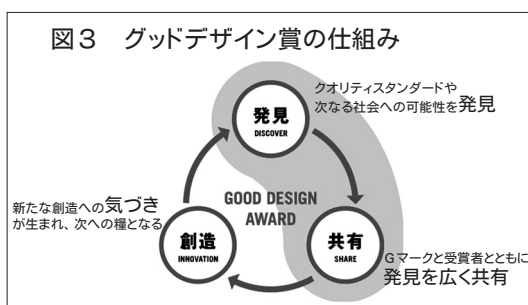
定所、典管（注：質屋）の外は先ずは用ふることなかれ」（佐藤信淵（1769～1850）著『抗場法律』より）。

山主をリーダーと読み替えてみると、先に示した次世代型リーダーに通じるところがあるのが不思議です。考えてみれば、リーダーたるものの本質的特性は、昔から変わっていないのかもしれない。

8. 最近のグッドデザイン賞受賞事例から見えてくるもの

公益財団法人日本デザイン振興会が主催するグッドデザイン賞は、1957年に創設された日本における代表的なデザイン賞です。

グッドデザイン賞は good なデザインを発見 (discover) し、それを多くの人が共有 (share) することによって、新たなデザイン (innovation) を促



すという役割を持ったデザイン賞です（図3参照）。内外の90名近い審査委員によって長時間かけて行われるグッドデザイン賞審査は、世界の数多くのデザイン賞の中で最も公正・厳格に行われていると思います。

グッドデザイン賞のウェブサイト (<https://www.g-mark.org/>) で受賞デザインをご覧いただき、近年デザインの領域がますます拡大する中、実に多様な担い手によるデザインが、様々な社会経済課題の解決に力を発揮しているのを感じていただければ幸いです。

（2019年10月10日・公開フォーラム）

筆者略歴（おおい あつし）

1973年一橋大学を卒業し通商産業省に入省。APEC（南東アジア大洋州課長）、日米自動車交渉（自動車課長）、電力自由化（電力ガス事業部長）、地球環境問題（大臣官房審議官）などを担当するとともに、防衛庁では防衛装備調達改革（防衛参事官）などを担当。2005～2007年日本政策投資銀行理事、2007～2015年三井物産役員、豪州三井物産社長、三井物産中国総代表、関西支社長などを歴任。

公開講演会記録

中国など主要国のアフリカへの直接投資について

帝京大学教授 郭四志



はじめに

近年、着実に成長を続けるアフリカは、世界の最後の巨大経済市場・有望な投資先として、国際社会での存在感が高まりつつある。かつて、欧州列強・宗主国がアフリカのモノカルチャー経済構造を作り資源開発を中心に投資したものの、2000年代以来、イギリスやフランスなど旧宗主国およびアメリカに加え、中国など新興国の対アフリカ進出が活発になってきている。

欧州企業は中国のアフリカへの参入・事業拡大に戸惑いつつも、アフリカ市場を堅守しようと旧宗主国の植民地としての言語・文化、ノウハウの蓄積を生かし

た事業戦略により磨きをかけている。アメリカは政治経済大国としてアフリカへの影響力を強め、アフリカで援助・経済勢力を拡大するなどしてアフリカでの存在感が高まりつつある中国を視野に、アフリカを支援する「パワーアフリカ」などの国家プロジェクトを立ち上げ、民間の対アフリカ投資の拡大をさらに推進しようとしている。

一方、1970～80年代には数多くの日本企業がアフリカで盛んにビジネスを展開したが、その後、多くの企業がアフリカを離れた。アフリカ現地の地政学的リスクの上昇によりビジネスの継続が困難になったことに加え、アジア市場へのシフトが加速したと考えられる。よって、日本企業は欧米や新興諸国のアフリカへ

の投資拡大、とくに中国が官民挙げてアフリカ市場を席卷する中、自らのアフリカ進出・投資戦略を思うように構築できず、他の国々と比べ、出遅れていると言わざるを得ない。

目下、ますます拡大している12億人からなる「最後のフロンティア市場」をめぐって、日本企業を含め主要国企業が積極的に対アフリカ直接投資を拡大し、それぞれアプローチ・投資パターンを繰り広げている。今後、ポピュリズムや保護貿易主義が高揚していく中、既存の世界市場・投資先を取り巻くビジネス環境がますます厳しくなるとともに、アフリカ進出や投資事業をめぐる主要国・企業間の競争がさらに激化すると考えられる。上述の問題意識に基づき、本稿の研究

目的は、以下の通りである。まず主要国のアフリカへの直接投資の歴史と現状を検討し、主要国企業による対アフリカ進出のアプローチ・投資パターンの比較、分析を踏まえ、主要国の対アフリカ投資の特質を明らかにする。加えて今後の主要国の対アフリカ投資の課題を取り上げたい。

一、主要国の対アフリカ直接投資の概観

アフリカ向けの外国の直接投資を見ると、1990年代後半以降、特に2000年初期から急激に増加している。アフリカへ流入する外国直接投資を示すInflowsの数値で見ると、アフリカは1995～99年にかけて、世界全体の外国直接投資額の2・0%を占めるにすぎず、2000年には0・9%に低下、2001年にやや回復したものの、それでも世界全体の2・3%に留まる「ちなみに、東南アジアは、1995～99年にかけて15・1%を占め、2000年に8・8%に低下したものの、2001年には12・8%に再び増加した」。2000年初期以降、世界的なエネルギー・資源高を背景にアフリカの経済成長に伴い、世界主要国のアフリカ直接投資は拡大してきた。

18年末時点で、世界の対アフリカ直接投資のストック額は8668・2億ドル、フロー額は757億ドル以上に達しており、それぞれ1990年代末と比べ約6倍、7倍と大幅に拡大している。ストックベースでみるアフリカへの主要投資国はフランスが第1位であり、オランダ、アメリカ、イギリスは第2位、第3位、第4位である。中国は第5位となっている。

しかし、近年中国の対アフリカ投資は大きく増加し、フローベースでグリーンフィールド投資額は、17年と18年にそれぞれ87・1億ドル、119・3億ドルに達し、第1位となっている。18年は中国に次ぎ、アメリカが第2位となっている。注目すべきは、17年と18年に過去の植民地時代の宗主諸国につながるEU地域の投資額は全体の26・1%、43・1%を占めていることだ。

近年主要国企業の南部アフリカや北アフリカへの投資は盛んになってきた。南部アフリカはアフリカ地域で、一番大きな外国企業の投資先である。南アフリカの場合、2017年に外国企業の直接投資の残高は約1500億ドルで、南部アフリカへの外国投資総額の64%、アフリカ全地域への投資先外国投資総額の17・3%を占めている。外国企業から南アフ

リカへの投資額は年間13・3億ドルとなっている。2012年1月～2017年10月まで、主要国の投資額と件数はそれぞれ152億ドル、420件となっている。米国企業は南アフリカへの一番大きな投資者である。2017年にデュポン社は南アフリカの農作物研究へのプロジェクトを立ち上げている。自動車分野では、いすゞはGMの南アフリカ子会社を買収し、中国の北京自動車は8800億ドルを出資、南アフリカ産業開発社と合併で自動車工場を設立している。ドイツ、イギリスの自動車メーカーは南アフリカ進出の主役で、最近工場の再編を通して南アフリカ域内における乗用車のサプライチェーンを築いている。

南部アフリカの他の国にも外国企業の投資が拡大している。たとえばザンビアへの外国企業の投資残高は170億ドルで2000年、2010年よりも4・3倍、2・3倍も増大している。2017年の年間投資は前年比65%の大幅増で11億ドルに達している。背景として同国政府は経済・産業多様化に取り組んでいることがあげられる。例えば中国のSinocast社は5億4800万ドルを投資、現地との合併でセメント工場を立ち上げている。なお、南部アフリカ地域には、イスラエル企業

(Gree200) が積極的に食品生産分野に参入し、事業展開している。なお、日本カービュース社は自社のインターネットサイトやコンサルティングの優位性を活用し、2012年10月にケニアに進出、東アフリカ地域の自動車販売事業を展開したうえ、さらに2016年3月にザンビアに進出し、インターネットによる自動車関連情報サービスの利用・促進を事業とする会社を立ち上げた。南部アフリカの他は、エジプトやモロッコなど北アフリカ、ケニアなど東アフリカへの製造業やサービス分野への投資が拡大している。

二、主要国の進出パターン・投資の特質

以上、主要国のアフリカへの直接投資およびいくつかの事業活動を概観してきた。主要諸国は、アフリカの資源賦存性、最後のフロンティア市場に惹かれ、それぞれの戦略・パターンをもって自国・企業の優位性を活用し、アフリカへの投資を展開してきている。まず、主要国の比較的共同な戦略目的として以下の点が挙げられる。

第1は、直接投資によるアフリカの豊富なエネルギーや鉱物資源の調達および開

発権益の確保である。それは、国際石油メジャーであるエクソンモービル、シェブロン、ロイヤル・ダッチ・シェル、BP、トタルおよび国際原発最大手のフランスのオラノ、中国の石油メジャーであるCNP C、日本の石油大手である国際石油開発帝石などの現地事業活動からうかがえる。

第2は、輸出促進・輸出代替や現地販売市場の確保である。ナイジェリアをはじめとするアフリカでの、ユニリーバ社の石鹼・日用品の製造販売や食品製造、コカ・コーラ社の飲料生産、および中国企業の海信社のテレビ・家庭用電気製品、金帝靴社のサンダルなどの製造販売は、輸出代替・現地販売指向型の進出である。これは、労働集約型の製造業を中心に製造された日用品・家庭電器用品などの製品、つまり低所得のアフリカ大市場のニーズに相応しい製品である。もちろん、こうした資源や一般大衆消費材以外の業種・分野に欧米・日本などの自動車メーカーによる、南アフリカ、モロッコなどのような高所得かつ産業基盤の比較的發展した諸国向けの自動車産業がある。

加えて、欧米の情報・通信大手であるボーダフォン、フランスのテレコム、マイクロソフトおよび日本のNTTコムや中国のHUAWEI、ユニコムなどが北・

南部アフリカを中心に通信・情報サービスを展開している。また、アメリカのウーバーなどがアフリカ現地で配車サービス事業、中国のアリババ、アリペイはモバイル決済業務を展開している。

第3に、主要国政府は自国企業の直接投資における資金・生産技術などによる経済・産業面でのパワーを通じて、アフリカでのプレゼンスや政治・外交および国際関係などの影響力を高めようとしている。このため、主要国政府は直接投資拡大・促進に精力的に取り組んでいる。

その例として、①米国政府の「パワーアフリカ」(アフリカの電力ネットワーク構築)計画、②イギリス政府の援助機関である国際開発庁(DFID)による農業ビジネスやインフラ整備などの計画、③フランス開発庁(AFD)・支援センターによる農業、都市開発、エネルギー分野などの支援およびAFD傘下の公的金融機関の融資、④日本政府のODAや政府系金融機関、JICAによるアフリカの資源開発投資やインフラ開発、農業発展・産業多角化のための支援、⑤中国政府のアフリカでの産業促進、インフラ整備・インターネットワーク構築などの「八大行動計画」が挙げられる。

上述の目的・戦略を遂行するために、

主要国は様々な事業手法・進出パターンを実施してきた。それは各国の事情やアプローチ方法および企業の経営資源・優位性により異なっている。今日、世界「最後のフロンティア」アフリカの大市場をめぐって諸外国間が激しく競争する中、主要国のアフリカへの投資・進出パターンについて興味深い点が注目される。

1. 中国の進出パターンと特徴

中国の対アフリカ直接投資は欧米、日本などと比べ投資の歴史が浅いとはいえず、17年時点ではフローベースで世界の第1位になり、それを通して、アフリカでのプレゼンスが高まっている。そうした中、中国の進出パターンの特徴が欧米・日本など主要国と比べてどのようなものであるか、内外から注目を集めている。

まず第1は、首脳外交を中心に官民挙げての進出パターンである。中国は92年に「走出去（海外進出）」という指針を掲げてから18年にかけて、江沢民・胡锦涛主席（当時）、習近平主席、および副総理以上の要人がアフリカへの首脳・資源外交を40回以上も展開して、それに伴い合意された現地の大型資源開発案件は50件に上っている。

加えて、これまで、「中国・アフリカ

協力フォーラム」という枠組みによる、アフリカへの無償援助・低金利融資額は1200億ドルに達している。こうしたアフリカでのインフラ整備などの大型援助は国有・民間企業の対アフリカ投資を推進させてきた。目下、アフリカ全域の中国系企業は1万社以上に達し、石油ガス・鉱物資源開発から、製造業、小売、情報通信サービスまで、事業を活発に展開している。アフリカの投資事業は、中国の石油・エネルギーの安全保障に寄与するし、また、中国経済の減速に伴う素材産業など過剰生産能力のアフリカ現地への移転など、国内産業構造調整に重要な役割を果たしている。

中国のアフリカに対する国家援助・低金利融資がフランスのコカ援助とは異なり、アフリカ諸国に対する「内政不干渉」原則を堅持しながら、資源権益など自国利益につなげていると考えられる。むしろ中国は西側と異なるアフリカへのアプローチ方法（アフリカ諸政府にとって都合）により、自国企業のアフリカ現地事業を拡大させたのであろう。

第2は、買収の参入方式を採用し、速やかに現地事業を開発、拡大するパターンである。中国企業の直接投資は、欧米、日本などと比べ、わずか20数年間の歴史

だから、アフリカに先行している先進国の多国籍企業に負けないように、M&Aを盛んに行ってきた。

中国政府系研究所によると、M&Aによる対アフリカ投資額は中国の対アフリカ直接投資の4割以上を占め、ほとんどが石油ガス・鉱物資源の案件である。18年6月時点で石油など資源案件は80件以上に上っている。

こうした買収により、中国企業は、グリーンフィールドの新規投資より大幅に時間などのコストを短縮するとともに、また、相手企業の人材や生産・販売チャネルなどの経営資源を手に入れた。特に資源案件（油ガス田・ブロック買収）の場合は、中国企業は短期間でアフリカ上流の探鉱開発権益を手に入れ、相手側の石油ガスの生産量・埋蔵量をも確保した。

中国企業が特にアフリカの重要な資源関係案件の買収を計画する場合、直轄の中央政府省庁に申し込み、首脳外交を通じて政府高官・要人から現地国政府・関係者へ買収に成功させるよう働きかける。

最後に、中国企業がアフリカ現地の華人・華僑ネットワークを活用しアフリカに投資するのは、重要な進出パターンと特徴である。

現在、世界各地に華人・華僑が400

0万人以上居住する。200万人近くが南アフリカをはじめとするアフリカ地域に住んでいる。昔から居住していたのは、数万人で、ほとんどの人は1990年代初期から移住してきた。

アフリカにおけるこれらの華人・華僑社会の存在が、中国企業のアフリカ進出・事業展開に大きな役割を果たしている。例えば、現地事情、政界や財界に人脈を持っている人は数多くいる。前述のようにナイジェリアでは、ある部落の「酋長」を務める人もいる。これらの人たちがアフリカの進出企業のFS（実現可能性調査）や立ち上げなどに協力している。現地の華人・華僑は中国とアフリカとの架け橋として本国投資事業に携わっている。

2. イギリスの進出パターンと特徴

イギリスの対アフリカ直接投資・進出は、イギリスは旧宗主国としての影響力・強みを活用し対アフリカ進出を展開してきた。イギリスの旧植民地国はエジプト、南アフリカ、ケニア、ナイジェリア、アシャンティ（ガーナ）など20数か国であり、北アフリカ、南部アフリカ、および東アフリカの地域に集中している。

植民地支配時代において、イギリスのアフリカ大陸・市場占領の進出方法は、

南北縦断の政策だと言われた。脱植民地時代1960年代、70年代以降、近年の対アフリカ投資・進出も南・北から展開したパターンと言える。イギリスの地域別対アフリカ投資はほとんどエジプトと南アフリカなどに向けられていた。イギリスの旧植民地社会とのつながりや文化・言葉との融合の一面が、今日のイギリス企業の強み・企業優位性の1つと言えるであろう。例えば、宗主国時代からの住み着いたイギリスの住民は、今日のイギリスの対アフリカ事業展開・現地企業経営にしばしば携わっている「2009～14年にエジプトや南部アフリカで企業を調査した時、このようなタイプの経営者・管理者の存在を見聞した」。

加えて、イギリス政府・金融機関のサポートは自国企業の進出・事業展開に重要な役割を果たしている。イギリス政府は対外投資を促進するための組織を設立している。その組織は①政府部門：外務省・国際開発部（投資援助と企業進出の推進）、貿易工業省（輸出と投資プロジェクトの促進）、貿易と投資庁（輸出市場の研究・開発、輸出入企業・投資企業へのコンサルティング）、②政府海外機構（貿易・投資業務へのサポート）、貿易・投資企業に対する輸出信用担保・海外企

業の政治リスクを保障、③産業・業界協会（イギリス工商業連合会による海外事業活動の支援）から成り立っている。

なお、イギリスのアフリカにある膨大な支店で金融・サービスのネットワークを形成し、メーカー・企業の海外、アフリカ現地事業の運営・拡大につながった。例えば、アフリカ現地のHSBCグループ、バークレイズ、スタンダードチャータード銀行のアフリカ支店は、1981年にサハラ以南のアフリカに現地法人を設立、南アフリカをはじめアフリカ市場に参入してきた。これら大手銀行は、アフリカ現地法人を含むイギリス系企業融資やバンキングサービス業務を通してアフリカ進出をサポートした。

3. フランスの進出パターンと特徴

フランスは旧宗主国としてイギリスと同じく数多くの旧植民地国を持っている。フランス企業のアフリカへの直接投資・進出では、蓄積してきた、フランス語圏での社会文化・言語・生活方式などの影響力を現地事業に活かしたと考えられる。かつて20世紀初めまでにフランスはアフリカ北部、西部、中部に次第に植民地を拡大していった。この一連の動きはアフリカ横断政策といわれる。

フランスの地域別進出は殆ど北アフリカのエジプト、モロッコ、アルジェリアなど旧植民地に集中している。「一方、石油開発や自動車企業の事業展開のためにアンゴラや南アフリカにも進出している」。

フランスには、アルジェリア、モロッコ、ニジェール、ガボンなど20以上の旧植民地国からの移民と住み着いていた3世アフリカ系のフランス人が合わせて500万人以上に上る。こうした移民、特にフランスで教育を受けた2世たちはフランスのアフリカ現地事業に携わる必要な人的資源である。フランスは、アフリカのフランス語圏諸国が歴史の中で蓄積してきた、フランス社会文化と融合した旧植民地の社会文化遺産を継承・活用すべしという、国内の認識に基づき、ODAはまず優先的に旧フランス語圏・旧アフリカ植民地国に援助してきた。それゆえ民間企業の現地投資・事業展開を促進した。

だが、フランスは経済協力分野、民間の対アフリカ投資分野でも旧植民地国・フランス語圏を重要視してきたとはいえ、フランスの援助を多く受け取った地域はフランスにとって商業的な権益や、石油・エネルギー権益が最も多い地域ではなかった。「中村宏毅「フランスのアフリカ政策に関する考察」『武蔵野大学政治経済研究所

年報』15号 PP. 293-323, 2012年」。

例えばナイジェリア、アンゴラなどだ。フランスの直接投資に関連してこれまでの国家援助は、ビジネス利益よりもフランス語の勢力圏における外交的影響力を重視し、フランスの国際社会での発言力の強化、国際的地位向上もしくは維持のためにフランスとの関係が伝統的に緊密なフランス語圏アフリカ諸国を優先したのである「同上」。

この意味で、これまでのフランスの国家援助は、ビジネス・開発権益に結び付く他の国と比べ、自国企業の対アフリカ進出を促進する度合いは弱いといえよう。

今後、フランス政府が経済成長重視の路線で、他の主要国と比べ、対アフリカ投資の地位は4番目に落ち込んだ中、アフリカでのエネルギー・商業利益を拡大するために他の非フランス語圏・非旧植民地国への援助を強化し、自国企業の投資拡大につながる非フランス語圏への進出を促進させると考えられる。こうした中、15年11月、フランスと中国政府は「第三国・地域での協力声明」を公表し中仏双方が連携してアフリカ地域を含む海外ビジネス事業の展開を図るとしている。

4. 米国の進出パターンと特徴

米国は19世紀初め、対アフリカ投資を

始めたが、イギリス、フランスなど欧州宗主国の間に挟まれ、アフリカでのプレゼンスは絶対的ではなかった。60年代中期、アフリカ諸国の多くが、植民地から独立して以来、アメリカは世界・アフリカでの絶対的パワーで、対アフリカ直接投資のストック・フローベースで、イギリスを超え第1位に君臨してきた。その投資の戦略的狙いはアフリカの石油資源の開発権益を獲得・維持しながら、アフリカの市場シェアを拡大・確保し、世界での影響力を高めようとするものである「たとえば、米国政府は、冷戦時代、旧ソ連のアフリカ進出の勢いを抑え、冷戦以降、特に2000年以來は、アフリカでますます強まってきている中国の影響力を牽制しようとしている」。まさに戦間期アメリカの対外投資戦略に類似している（安保哲夫『戦間期のアメリカ海外投資』）。

アメリカの対アフリカ進出パターンと投資の特徴についていくつかの点を指摘しておきたい。

まず、地域別にはナイジェリア、アンゴラ、リビア、エジプトなどアフリカ主要産油国に集中し、長い間、石油資源・鉱物資源分野への投資は全体の6割以上に達している。2000年時点で、ストックベースでの金額は数百億ドルになっている。

だが、17年に米国の対外直接投資のストック額は10年比、大きく減少した。近年アメリカの対アフリカ投資のパターンは、石油ガス資源分野から、情報や専門技術・サービスに変わりつつある。つまり、近年シェール革命を契機にシェールオイル増産により、石油の純輸出国になり、米国のアフリカからの輸入量は大きく減少していることから、アフリカの石油ガス資源に依存する必要性が薄れてきた。

専門技術・情報通信サービスなどへの投資を拡大しても単位当たり金額が大きい石油開発の投資規模には及ばない。今後、アフリカへの石油開発投資の減少に伴い、米国の全体投資も伸び悩み、低迷していく可能性が考えられ、米国のアフリカへのかかわり・影響力は低下していくであろう。

アメリカのアフリカへの投資主体にもう1つの重要な進出パターンと特徴がある。アフリカ投資の主体は自国の国際メジャーと大手企業および国務省所属の「海外民間投資機構」である。同組織は1971年に設立、国務省国際開発庁長が同組織の会長を兼任する。それ以来、同組織が米国国際開発庁の対アフリカ投資に関連する援助プロジェクトおよび数多くの直接投資プロジェクトを行ってきた。

た。こうした国家資本の対アフリカ投資は企業の対アフリカ投資を促進してきた。しかしトランプの「アメリカ第一主義」の影響により、政府の対アフリカ投資への参入度合いが薄くなると考えられる。

5. 日本の進出パターンと特徴

日本のアフリカ進出パターンと特徴として、主に以下の3つが指摘できる。

まず、第1に前述のように日本は他の欧米などの外国とは異なり、商社先導・商社参加型の進出が重要なアフリカへの投資パターンである。三菱商事、三井物産、伊藤忠商事、住友商事、丸紅、双日、豊田通商という7大大手総合商社は流通・情報分野で重要な経営・情報資源およびオーガニゼーションなどの機能を持っている。加えてほとんどの総合商社は、資源・エネルギー関係の問屋・専門商社を前身としている。

対アフリカ投資にあたって、まず商社は、現地で日系企業のための情報収集・提供や貿易業務および原油・ガスエネルギー資源と鉱物資源開発投資を行った「伊藤忠商事が1978年10月にアフリカのナイジェリアに進出し、情報収集・提供および現地顧客先との連絡業務を展開してきた例が挙げられる（東洋経済新

報社『海外企業進出総覧』2018年6月）。そして製造業において、相対的長期取引システムの下で、メーカー・商社と連携し、商社とメーカーが持つそれぞれの流通・情報分野および生産分野の経営資源の優位性を吸収しあってシナジー効果をもたらす「商社参加型」の事業を展開してきた「たとえば、2017年2月、三井日立パワーシステムズ(MHP S)が、三菱商事などとともに、ケニア発電公社)から、出力7万キロワット級の蒸気タービンおよび発電機などを含む発電設備を2系列、計14万キロワットをフルターンキー契約で受注したと発表した。地熱発電所オルカリアVに納入するもので、地熱発電設備の設計の他、蒸気タービン、発電機、復水器といった設備一式を供給し、据付・試運転を行う。運転開始は2019年」。これは長い間、日本の対外進出の一つの重要なパターンで、日本の多国籍企業の特徴と言える。

第2は買収による進出パターンと特徴である。近年日本企業が対アフリカ投資を活発にする中、アフリカ現地企業の買収を通して進出する動きが際立っている。17年までの5年間でもアフリカに進出した日系企業数十社の中で、買収・一部買収を活用し、進出事業展開をした会社

3割以上に上っている。例えば、資源開発では、三井物産は16年12月、6億ドルを投じ、モザンビークで開発中のモアティーズ炭鉱95%の権益を保有するヴァーレ子会社の権益15%の買収に加え、インフラ事業を推進するヴァーレ子会社の50%持分も取得した。生産分野では、LIXILが14年9月に51%を取得した南アフリカ住宅設備大手のGDWT社を完全子会社化し、LIXIL Africaブランドの生産販売に乗り出した。

上述のM&Aを実施した大きな理由は以下の点にある。一般的に日本企業の海外進出の突破口、インフラと生活環境を整備した工業団地を建設して日本企業向けの拠点を作ることによって、日本の強みである製造業進出に弾みをつけるケースである(例えば、中国の大連、蘇州などにある日中工業団地である)。だが、アフリカには中国・東南アジアと異なりインフラが脆弱かつ人材の確保も難しいという事情がある。そのため、日本企業はM&Aによってその歩を進めている。新規投資よりもアフリカ既存の販売網や人的ネットワークを活用してアフリカでの事業を展開したのである。一例として豊田通商が挙げられる。

豊田通商は、12年12月、アフリカ市場・

自動車分野を中核とするフランス系大手貿易会社CFAOS・Aの株式を買収、97・81%の権益を取得し同社と提携関係を持った。その後、15年12月残余株式を買収した。CFAOは北・西アフリカを中心にビジネスを展開し、豊田通商は東・南アフリカに強みを持っているため、両社の経営資源の補完によって、現在自動車販売ではアフリカ53か国のマーケットがカバーされている「野村遥」アフリカでのビジネスの法務・M&Aでの日本企業参入も「『法と経済のジャーナル』2014年8月」。

第3は、日本企業がアフリカ・新興国市場に強い他国企業との連携パターン・投資である。日本からアフリカへの直接投資は、主要旧宗主国やアメリカや中国と比べて低くとどまっている。だが、アフリカ市場に強い、先行する外資系企業と連携して現地で事業展開する日本企業の進出パターンが注目される。背景には、日本企業は、相手の人脈・ノウハウなどアフリカ市場での経営資源を活用し、リスク回避や販路を広めていることがある。以下いくつかの事例を見てみよう。

情報通信分野では、三井物産は17年にグーグル、南アフリカの情報通信技術(ICT)投資ファンド、国際金融公社

(IFC)との4者連携で、アフリカ都市部での光ファイバー網に関連する高速通信事業を手掛ける企業へ出資している。同社は相手企業と連携し、その経営資源の優位性を活用し事業を展開している。その優位性は①グーグルがアフリカの通信産業に先行投資しており、技術的なプラットフォームを確立したこと、②IFCにおけるファイバーや通信タワーなどICTの幅広い分野にポートフォリオおよび豊富な事業経験・ノウハウを有していること、③南アフリカを拠点にする南アフリカの投資ファンドが現地市場に精通していること、である。

水インフラでは、三菱重工と三菱商事は、14年にドバイの総合水事業会社「メティート社」に出資・連携し、メティート社が上下水道などの設計・建設や運営および海水淡水化技術・ノウハウをアフリカ市場に活かそうとしている。ちなみにメティート社は2015年にルワンダで浄水場の整備事業を受注している。今後日本の両企業は同社の実績を踏まえ、さらなるアフリカの水インフラ需要の獲得を目指している「『インフラ・消費分野に事業拡大―新興国企業とのパートナーシップがカギ』『国際開発ジャーナル』2016年8月」。

食料関連分野に関しては、三菱商事は15年、シンガポールを拠点とする農産物大手の「オラム社」に20%出資し、資本業務提携をスタートした。同社は、コーヒーやカカオなどの取り扱いで世界トップクラスの実績を有し、65か国で事業を展開している。もともとナイジェリアで設立された企業であり、アフリカに強い事業基盤を持っている。こうした中、三菱商事は同社を通じてアフリカの食料関連事業に多角的に参入していくことを狙っている「同上」。

物流・小売分野では、豊田通商は13年5月フランスのカルフルとアフリカでのショッピングセンター事業を提携し、さらに16年10月フランスのボロレ・トランスポート&ロジスティックスおよび日本郵船と共同で、ケニアにおける完成車物流会社を設立、事業を進めている。

このほか、双日は08年にアフリカ市場に強いUAEのETA Star International社と連携してアンゴラFCKS社からアンゴラ最大規模のセメントプラントやインフラ設備一式を受注し、アンゴラでセメント事業を始めた。

終わりにーアフリカ投資の主な課題

以上、主要国による対アフリカ直接投

資の展開および進出パターンと特徴を述べてきた。それを通じて、以下いくつかの点ーアフリカへの投資の主な課題を指摘しておきたい。

まず第1は、諸外国が対外直接投資を行い、アフリカ事業を展開する際にWIN-WINの視点を持つべきである。

目下、世界では、ポピュリズムや保護貿易主義が高揚するにつれ、世界の経済成長を取り巻く環境が厳しく不確実性が増幅している。こうした中、主要国が最後のフロンティアとしてのアフリカ大市場をめぐる、競争が今後ますます激化すると考えられる。諸外国の対アフリカ事業は、過度な競争を避け、WIN-WINの視点から対アフリカ投資を展開すべきである。

第2は、アフリカでの事業環境が直面する安全上のリスクが依然として厳しく、現地の事業展開にとって予防・解決策が必要不可欠である。これまで、ソマリア、ナイジェリアなどで中国企業の従業員が合計百人近く拉致され、数十人も殺害されたことがあり、日本企業も数年前アルジェリアで10人も被害に見舞われた。関係諸国が現地のビジネス事業を比較的小規模に展開させるために、人身安全・テロ事件の防止に共通に対応し工夫を凝らして取り組むのが喫緊の課題である。

第3は、アフリカ地域経済の健全な成長を目指すべきである。主要国は、直接投資を通してアフリカで資源獲得や12億人の消費市場の確保を目指す一方、現地経済を健全かつ持続的に発展させるために、現地諸国と共同で、旧植民地時代から残った負の遺産であるモノカルチャー経済問題の克服に取り組まなければならない。

編集・紙幅の都合で文中の注釈と引用した「参考文献」を省略した。

(2019年10月17日・公開フォーラム)

筆者略歴(かくし)

中国大連生まれ。1999年法政大学大学院社会科学研究所博士後期課程修了(経済学博士)、東京大学社会科学研究所外国人研究員。2001年日本エネルギー経済研究所研究員。2012年日本エネルギー経済研究所研究主幹などを経て、現在に至る。

著書に、『日本の対中国直接投資』(明德出版社)、『中国石油メジャー』(文眞堂)、『中国のエネルギー事情』(岩波新書)、『中国原産大国への道』(岩波ブックレット)、『中国経済の新時代』(編著、文眞堂)、『米中摩擦下の中国経済と日中連携』(編著、同友館)など多数。

公開講演会記録

高齢者の睡眠学

(公財) 神経研究所精神神経科学センター長 高橋清久

1. はじめに

人はなぜ眠るのか？これは古くて新しい命題で完全な回答はまだ得られていません。ただ、翌日の活動に備えてという答えが一番納得しやすいのかもしれない。いわば日中活動準備説です。しかし、人は寝ている間でも脳や内分泌器官その他の臓器は活動しています。記憶の固定とか骨の成長などはむしろ夜間の活動によるものです。ですから終日活動説、すなわち生体の活動は昼夜を通して行われているという考え方は1日の活動リズムの一部という考え方です。また、睡眠中に脳を冷やすという考えもあります。そうしないとオーバークヒートしてしまうのです。コンピューターと同じですね。これは睡眠

の脳冷却説とていいかもしれません。このように睡眠の意義、機構についてはまだまだ議論の余地があります。

今回の講演では高齢者が心身ともに健康で毎日を過ごすために、高齢者の睡眠の特性といったところに焦点を当ててお話ししたいと思います。

2. 睡眠に関する基本事項

最初に睡眠に関する基本的な事柄を整理しておきます。

①睡眠の計測法

動物が寝ているのかどうかを客観的に判定するのは容易ではありません。動物によっては一定時間以上動かないということによって判定することもあります。しかし、人の場合は脳波という客観的な指標があ

りますからそれを使います。さらに眼球運動、筋電図、呼吸、心電図などを使って睡眠の状態を多面的に測定して一様でない睡眠状態を客観的に判定します。これによって作成される図が睡眠ポリグラフです。

このような方法により人の睡眠は大きくレム睡眠とノンレム睡眠との2つの状態に分けられます。レム睡眠は眼球の急速な運動が見られるものです。レム睡眠はRapid Eye Movementの頭文字REMからきています。レム睡眠以外はノンレム睡眠と呼ばれますがこれは睡眠の深さによって3ないし4段階に分けられます。その判定は脳波の周波数によりします。その判定は脳波の周波数によりします。周波数が小さいゆっくりした波ほど深い眠りとされます。

②終夜睡眠ポリグラフ



時間経過に応じて睡眠の状態を評価し一晚の睡眠経過を図にしたものが終夜睡眠ポリグラフです。健康な若い成人の代表的な例を示します。まず、ノンレム睡眠の浅い睡眠から始まり、次第に深くなり段階が3ないし4まで進みます。ついで睡眠が浅くなるとレム睡眠が現れます。その後またノンレム睡眠が出現し同じような経過で再びレム睡眠が出現します。このノンレム睡眠とレム睡眠が組み合わさって1つの周期を作ります。この周期が4〜5回繰り返されて覚醒に至ります。経過の中で特徴的なことは段階3または4の深い睡眠は睡眠初期に集中し、レム睡眠は睡眠後半に多く現れることです。

③加齢の影響

睡眠は加齢とともに変化します。加齢とともに深い睡眠の量が減少し、中途覚醒が増加します。また、寝付くの要する時間も長くなります。厚労省はこれまでの研究成果をもとに必要な睡眠時間の目安を提言しています。それによると25歳で7時間半、40歳で6時間半、65歳で6時間という睡眠時間です。でも必要な睡眠時間は個人差が大きいと考えられます。ですから翌日眠気などなく元気に能率よく活動できれば睡眠は足りていると考えてよいでしょう。

④眠気はどのように起こるか

眠気の起こり方には2通りあります。目覚めてから時間の経過とともに脳や体に疲労物質が溜まってきます。それがある量を超えると眠気が起こってきます。脳の中に睡眠物質がたまりこのような物質が眠気を引き越していると考えられます。もう1つはある一定の時刻が来ると眠気が起こります。これは体内時計の働きによるものです。前者は砂時計型、後者は体内時計型と呼び分けてよいでしょう。この2つの時計が相互に関係しあって毎日引き起こされる眠気をコントロールしているのです。

体内時計は視交叉上核とよばれる脳の深い部分にある神経核です。この神経核は自分のリズム（自律性）をもって活動しますから、時刻を知る手掛かりがないところで生活しますと睡眠のリズムは24時間よりも長く、次第にずれを生じます。しかし光などの環境のリズムに同調しやすいので人は地球の自転の24時間リズムで生活ができるのです。体内時計型の時計が働いていると自覚できるのは徹夜をしたときです。夜が深まるにつれて眠気はどんどん強くなりますが、明け方近くなりますと眠らないのに眠気がかかるようになることがあります。これは体内時計が

朝の時刻を指しているからです。

この砂時計型時計と体内時計型時計とが同調していることが睡眠にとって有利と考えられますので、規則正しい生活リズムを保つことが重要です。

3. 高齢者の睡眠の特徴

高齢になると睡眠リズムが次第に変化してきます。一般的に見られるのは位相の前進です。年を取ると早く目覚めるという傾向が現れますが、これは位相前進によるものです。

体温を指標として1日のリズムを図ることができですが、若い成人では朝目覚める前から体温は徐々に上昇を開始し、日中の活動とともに体温は上昇し続け夕方頃に最高点に達します。それ以降は徐々に低下して寝付くと下降が促進され、覚醒の数時間前に最低点に達します。夕方の最高点と睡眠中の最低点の差が振幅になります。この振幅が高齢者では小さくなります。すなわち、日中の最高点の体温が低くなり、睡眠中の最低点が高くなります。このような振幅の低下が高齢者の1つの特徴です。

睡眠の質の低下も見られます。すなわち、寝付くの時間がかり、深い睡眠

の量が減り、途中で目覚める中途覚醒の回数が増えます。人によっては朝早くに目覚めてしまい、それ以降寝付けないという状態になります。これは早朝覚醒と呼ばれます。

以上、高齢者の1日のリズムや睡眠の特徴をまとめますと表1のようになります。

表1 高齢者の睡眠の特徴

1. 位相前進（寝る時間と起きる時間が早くなる）
2. 振幅低下（日中の最高体温と睡眠中の最低体温の差が小さくなる）
3. 入眠困難（寝つきが悪い）
4. 深睡眠減少または欠如（深い睡眠が少なくなる）
5. 中途覚醒増多（途中で目覚めやすい）
6. 早朝覚醒（朝早く目が覚めそれ以降眠れない）

ではなぜこのような変化が高齢者に起こるのでしょうか？それは心身面の加齢現象と心理社会的面的変化によります。身体的変化の例としては、視交叉上核を含めた脳の变性、萎縮など脳の加齢現象です。また、内分泌機能も変化し、メラトニン、成長ホルモン、性ホルモンの分泌が低下します。泌尿器系の変化で夜間頻尿をきたします。さらに高齢者は種々の病気に罹りやすく、それによる痛み、痒み、呼吸困難などの症状で睡眠が妨げられます。

心理社会面の変化としては、決まった職がなく、交友関係も少なくなり、外出が減るなどの活動低下が起こります。また孤独感や意欲低下もあり、これらはみな睡眠の質を悪くします。何もすることがないから早く寝ようといったライフスタイルの変化も睡眠の質の低下につながります。

4. 高齢者の快眠のためのおすすめ（表2）

加齢現象で睡眠の質が低下しても、それなりに工夫することによって質を高めることは可能です。以下にその工夫方法をまとめます。

① 光に当たる
光がもっとも

表2 快眠のための工夫

1. 光に当たる
2. 起床後に食事をする
3. 運動をする
4. 短い昼寝をとる
5. ぬるめの風呂に入る
6. リラックスタイムを設ける
7. 眠くなってから布団に入る
8. 寝室環境を整える

強いリズムの同調因子です。光に当たることによってリズムがリセットされます。また、朝の光は位相前進を夜の光は位相後退を引き起こします。通常、朝定刻に起床することが必要な者にとっては朝の

光が有効ですが、高齢者の場合には自分の望ましいリズムをつくるために光を浴びるタイミングを工夫する必要があります。例えば早朝覚醒で困る場合には夕方光を浴びて位相を後ろにずらすといった工夫も必要です。

② 起床後に食事をする

若い人には通常朝食をとることをすすめます。しかし、高齢者の中には起床時刻が遅い人もいます。そのような場合でも、食事をきちんをとることが勧められます。起床後の食事をとることによって、1日のリズムをリセットすること以外にも、体温を上昇させ活動性を増したり、活動のためのエネルギーを確保し、免疫力や病気の抵抗性を高め、それによって良好な体調を維持するといった効果が期待できます。

③ 運動をする

運動を習慣づけている人は、寝つきがよく深い睡眠が多く、睡眠時間が長いといったデータがあります。これは高齢者にも当てはまることです。

④ 短い昼寝をとる

30分以内の短い昼寝をとるとそれ以降の作業の効率が上がります。習慣的に仮眠をとる高齢者はそうでない人に比べて意欲的であるというデータもあります。

また、短い仮眠は認知症の予防につながるという報告もされています。さらに、夜の不眠に悩むグループに習慣的な仮眠と夕刻の散歩がある期間試みたところ、不眠が解消したという報告もあります。ただし、長すぎる昼寝は仮眠後ぼんやりした状態が長く続き作業効率を下げますので注意です。

⑤ぬるめの風呂に入る

体温の低下時には寝つきがよくなります。入浴で一時的に体温を高め、体温が低下タイミングで寝付くと寝つきをよくし、かつ深い眠りが増します。入浴した場合はそうでない場合と比べて体温の低下が急激で大きいためより効果的なのです。ただし、あまり熱い湯に入りますと交感神経が刺激されかえって入眠の妨げになるので避けるのが賢明です。

⑥リラックスタイムを設ける

人には自分の意識と関係なく働く自律神経系があります。自律神経系は交感神経と副交感神経に分かれており、およそ日中の活動時には交感神経が、夜間睡眠中には副交感神経が働きます。この交感神経から副交感神経系への切り替えがうまくゆくとスムーズに眠りに入れます。そのためリラックスタイムです。

心地よい音楽、肩の凝らない読書、ア

ロマ、ヨガ、ストレッチなどなんでもよいので自分に合ったリラックス法を身に着けておくとういでしょう。

⑦眠くなってから布団に入る

高齢者に限らず、睡眠に問題のある人の多くは、早く寝て疲れをとりたいと考え、いつもより早くから床に入り、寝よう寝ようと頑張ります。しかし、これは逆効果です。不眠症の人の睡眠を詳細に観察すると寝つきに時間がかかり、途中で目覚めることが多いのです。10時間床についていても6時間くらいしか眠れません。そこで眠くなるまで起きていて朝は決まった時間に起きるように指導します。その結果、寝つきがよくなり中途覚醒も減ります。実際に眠っている時間は変わりますが、横になっている時間は8時間程度になります。そうしますと患者さんはよく眠れたという感じを抱きます。

最近是不眠症に対して、①睡眠に関する正しい知識を持つ（睡眠衛生指導）、②眠れなければいったん床を離れる（刺激逓減法）、③眠くなるまで起きており一定時刻に起床する（床中時間制限法）などを骨子とした不眠症認知行動療法が行われるようになっていきます。この治療法は睡眠薬治療に匹敵する効果を上げています。

⑧寝室環境を整える

光、音、温湿度など眠るときの環境が快眠には重要です。特に光は日中から注意を払い日中の室内光も昼間は寒色系（青中心）、夜間は暖色系（赤、黄中心）を選ぶのが賢明です。また、夜間コンビニなどの強い光は避けたいものです。騒音（60デジベル以上）は眠りを妨げますから避けます。温度は空調でコントロールをするほか、湯たんぽや水枕なども活用できます。

5. 快眠のために避けることが望ましいこと（表3）

①寝酒

アルコールは眠気を強くし、寝付きやすくします。しかし、その効果は長続きせず、中途覚醒が増加します。アルコールには利尿作用もありますから、軽い脱水状態になりのだの渴きもです。これも中途覚醒を起こしやすくなります。結局、睡眠時間は短くなり、

表3 快眠のために避けるべきこと

1. 寝酒
2. カフェイン
3. 喫煙
4. 就寝前の強い光
5. 就寝前の水分摂取
6. 興奮状態

睡眠中に呼吸が止まってしまふ（睡眠時無呼吸症候群）傾向が強くなります。さらに長期に寝酒を続けると高血圧症の発症やアルコール依存などの危険もあります。

② カフェイン

カフェインの覚醒作用は30分～1時間でピークに達します。半減期は3～5時間で、効果持続は3時間程度です。したがって夕方以降の摂取は要注意です。入眠が妨げられ睡眠時間も短くなります。カフェインにはアルコールと同様に利尿作用がありこれが中途覚醒につながります。

③ 喫煙

タバコの主成分のニコチンには覚醒作用があり、その効果は摂取後約1時間は持続します。これまで、①喫煙本数が多いほど不眠の割合が高い、②喫煙者は浅い睡眠が多く、③深い睡眠が少ないことが報告されています。

④ 就寝前の強い光

強い光は体内時計を遅らせ寝つきを悪くさせます。また、睡眠ホルモンであるメラトニンの分泌を抑制します。

⑤ 就寝前の水分摂取

寝る前に水分をとると夜間尿が増え中途覚醒の数が多くなります。

⑥ 興奮状態

睡眠中には副交感神経系の働きが活発

になり、交感神経系の活動は抑えられます。笑う、悲しむ、怒るなど感情が高ぶると交感神経系の活動も増し、脳の覚醒中枢も刺激されます。ですから恐怖を感じるテレビを見たり、涙が出るような悲しい物語を読むといったことは避けるのが賢明です。ましてや寝る前に夫婦喧嘩をするなどはもってのほかです。

6. 終わりに

快眠をとるための工夫に加えてもう1つ重要な事柄があります。充実した気分をもって床に就くということです。今日も1日よく動いた、楽しんだ、穏やかだったなどいろいろな1日がありますが、今日が良い1日だったと思える気持ちが大事です。それが穏やかな感情につながり自然の睡眠を誘うのです。したがっていかに1日を過ごすか、いかに充実した時をもてるかが重要です。日中の過ごし方が大事だというわけです。

このような充実感が持てるためには心身の健康が必要です。健康の3要素として栄養・運動・睡眠はよく言われますが、高齢者には社会参加が加わります。高齢になっても引きこもらず、孤立せず、毎日人と会い会話を交わすという習慣が大

事です。社会参加によって運動にもなり、運動が食欲を増し、良い睡眠がとれるようににもなります。このように図1の4つの要素は相互に関連を持っているのです（図1）。

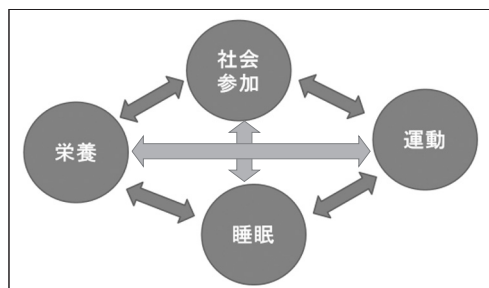


図1 心身の健康に必要な4要素

高齢になっても社会参加をこころがけ心身の健康を維持・増進させましょう。（2019年11月7日・公開フォーラム）

筆者略歴（たかはし きよひさ）

1938年東京生まれ。東京大学医学部卒業、精神科医、専門は精神医学一般と睡眠学。東京都神経科学総合研究所副参事研究員、滋賀医科大学精神科助教授を経て2005年に国立精神・神経センター武蔵病院院長に就任。2018年から現職。2011年に睡眠健康推進機構を設立し、正しい睡眠の知識の普及・啓発に努めている。

公害の町、日立市がなぜ桜の里になったか？

細川呉港（会員）

戦国時代、常陸の国（現在の茨城県）の北部、宮田川の上流の赤沢溪谷に銅山があり佐竹義重が掘っていたが、関が原の後、佐竹氏は秋田にお国替えとなり、後水戸藩によって採掘された。有名な寛永通宝はこの銅で造られたと言う。赤沢銅山は時には金も採れたらしいが直ぐに鉱脈が続かず廃鉱になっている。しかし、銅だけは以後、細々と、またさまざまな人によって採掘されていたが、明治38年（1905年）、ここを久原房之助が買取り近代的な、採掘、精錬が行われるようになった。

久原房之助は、実業家、後に政治家になった男で、日立製作所の創業者でもある。彼は山口県萩の生まれで、若いとき叔父がやっていた秋田県の小坂銅山で働き、労使や、煤煙などさまざまな問題を

解決し小坂銅山を発展させた男だ。長州閥。しかし私は、久原房之助という人、すぐに思い出すのが、大谷探検隊の将來品を買い取ったことだ。大谷光瑞の本願寺が経営的に破綻したあと、探検隊が持ち帰った西域の仏像や壁画、壺などを買い取り、自分の別荘に置いた。別荘は朝鮮の京城、大陸の旅順にもあったので日本と合わせて都合3か所に分散されたことになる。これが終戦でそのまま京城と旅順に残された。京城のものはそのまま韓国の国立博物館に。旅順のものも旅順博物館にある。旅順博物館のものは、戦前写真図録になり写真集を私も持っている。

明治37年（1904年）に日露戦争が始まり、銅だけではないがさまざまな鉱物資源や粗鉱の需要が急増。久原はそのタイミングで、赤沢銅山を買取り、近代的な

製法で、銅の生産を始めた。黄銅鉱を掘り、選鉱して製錬所で溶鉱炉に。赤沢溪谷にそれらの工場を建て、精錬が始まった。工場の四本の煙突から出る亜硫酸ガス

による被害が出始めたのは間もなくだった。工場の西北、山の上流の入四間村で最初に被害が出た。稲作や麦、野菜、それに桑の栽培をしていた農民たちがそれに気づいたのは、稲の葉が錆色に変色すること。下葉が枯れて捲き、落ちてしまうこと。桑の芽がしおれて成長しないことだった。桑の葉は、毎日のようにお蚕さんに食べさせなければならなかった。村民450人ほど。村人たちは直ぐに御岩神社の社務所に集まって今後の対策をどうするか話し合った。

この時の中心人物が若い関右馬允であった。その時に結成されたのが青年同志会

であった。関は、その後、日立鉾山の発展の歴史と共に30年にわたり、工場の煙害と立ち向かうのである。彼の生涯の「仕事」になった。いや生涯関わらざるを得なかったのである。すべて村人たちのためであった。

冬は西風が山の方から吹き、工場より下流にある日立地域に煙が流れ、春から夏にかけて野菜や作物が育つときには、宮田川のある赤沢溪谷に沿って海からの風が吹き上がってくる。工場周辺の山の村々は煙害を被った。煙害は作物だけではなく、工場のある周辺の山々の木々が軒並み枯れていった。山もまた村民の生活のものであった。木を切って薪をつくり、また炭を焼いた。その山がいわば赤い地肌を出してはげ山になったのである。枯れ木が山を覆った。その姿は人々にいいようのない恐ろしさをもたらした。作物を育てることに生きがいを持っている農民たちにとっては、木々の立ち枯れた山々や、赤くただれたような地肌を見せる山の姿は、自分たちの農作物が被害を受ける以上に、精神的な打撃を与えた。これに対して、日立の工場側は、角弥太郎という男が日立鉾山の庶務課長として農民たちに対応した。実はこの角という男は、久原房之助と一緒に秋田県の小

坂銅山で働いていた男で、そのときにすでに公害問題や労使紛争を経験していたのである。それがまたよかったのである。工場稼働の初期の段階から煙公害が発生することを念頭に、早くから農民に保証金を出したのである。

だが、銅の需要は高まり、久原は最初に立てた工場から少し宮田川を遡ったところ、昔、大雄院というお寺の跡を買取りそこに大きな工場を建てた。煙害はいっそう激しくなった。山々の木が枯れると、保水力がなくなり、雨が降るたびに山肌に溝ができ、それが次第に大きくなって崖崩れ、また台風のと きなどは土石流が流れた。それが入四間村の道や田畑を埋めた。会社側はそのたびに保証金を払った。明治42年に、角弥太郎は会社の費用で、農事試験場を作った。煙害に強い植物はなにかを研究するためであった。そして工場を中心に、半径8^キ、21^サ後に後にオシマザクラを植えたのである。苗は伊豆の大島から取り寄せた。大島の三原山は火口近くでもオシマザクラの広大な自生地があった。煙害に強いからである。一方、工場ではいままでの煉瓦の煙突（高さ24^ミ）、これを「八角煙突」といったが、それに替わって、「ムカデ煙道」というのに切り換えた。これは工場の煙を、

煙突ではなく、山肌に沿って尾根に四角形や半円形の煙道を造り、そのまま山頂まで登らせる。しかもその煙道のあちこちに穴をあけて、煙を分散させて放出するといふものである。しかもその煙道の途中に2百馬力の送風機を設置し、煙を勢いよく吹き上げるようにした。神峯山にいくつかの煙道が這いのぼった。奇妙な風景であった。このころの専門家の考え方として、濃い亜硫酸ガスをできるだけ薄め、広い範囲に噴出するという理論であった。山のあちこちから、黄色い煙が出た。これが山肌を登るムカデのように見えた。

だがこれもまた完全ではなかった。製錬所の方や社宅に流れてくる煙は減ったが、山の上の村々には減らなかった。この間にも、枯れた木のたくさんある山で、山火事が発生したり、また坑道では落盤事故も起こった。

農民は咳をする人が多くなり、馬が死んだ。

角弥太郎は、庶務課長でありながら、久原の信頼あつく、辣腕をふるってさまざまな提案をした。その日によって風向きが替わるので、煙が入四間村や山の方に流れるときは、工場の生産を縮小し、煙の噴出を少なくなるようにしたのだ。風向きや気流は工場の生産にとって大事

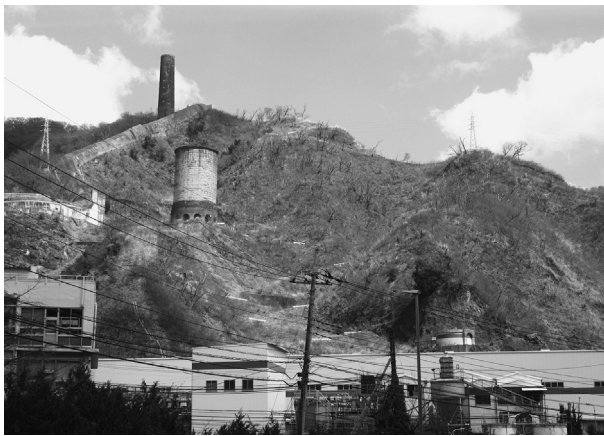
な要件となった。角はさらに、茨城県内に自前で気象観測所を8か所作った。なかでも神峯山の観測所を中央観測所とし、あとの7か所からデータがすべて集まるようにした。明治43年のことである。まだ気象庁の観測所が1県にひとつくらいしかない時代であった。あとの6か所は、高鈴山、原、下深、高萩、大門、瑞龍、洪沢である。これにより、東北風のときは高鈴山の方に煙が流れるとか、また朝と夕方は煙は台地を這いやすいとか、さまざまなことが分かってきたのである。

一方、関右馬允の方は、常に農民からの訴えがつきなかった。こんなに芋の葉が枯れたとか、たばこの葉がしおれたとか、煙害は入四間村だけでなく、2町10か村に及んだ。また山林の被害はもっとひどく3町18か村に広がったのである。関は、その都度自分で調査に行き、まだ珍しかった写真機を買い、写真を撮った。それを角弥太郎に見せたのである。

農民はその都度保証金をもらったが、お金さえもらえばいいというものでもない。こんなことの繰り返しは、人々に絶望感を芽生えさせた。だめになるのが分かっていて、作物を植え、枯れたら保証金をもらう。そういった生活には夢がないのだ。関は村人たちをつれて角が提案した村を

上げての移住、そのための候補地を那須高原まで見に行った。那須の250町歩の土地は、まだ藪や林の状態だった。木を切って根を掘り、それから畑を作らねばならなかった。農民たちが一番気にしたのは、農業用水の確保が難しいことだった。畑を作るのにはいいが、農民たちはやはり米を作りたいのである。稲作には、それなりの水利がないと田んぼは作れないのだ。それでその話は流れた。

大正2年になって、政府から工場にお達しがあった。亜硫酸ガスの濃度を10



枯れた山稜を這い上るムカデ煙道（隧道）と山腹のダルマ煙突。最後の山頂の煙突は世界一になった。1981年（昭和56年）銅山閉鎖後、12年たって上3分の2が台風で倒壊した。

00分の1・5以下にするように――。そして煙害予防調査会からの勧告で、新しい煙突を作るようにと指示があった。その煙突は新発想の煙突だった。高さ36㍎、太さはなんと18㍎の太くて短い大きな煙突だった。その煙突の根本に周囲に13個の大きな穴があいていて、そこから空気を取り込んで、煙と一緒にして、つまり煙を薄くして空に放つというものだった。煙突内に50馬力の送風機があった。煙害予防調査会が知恵を絞って考えたものだった。

新しい煙突は直ぐに実行に移された。たしかに煙そのものは薄くなったが、結果は散々だった。煙はやはり煙突を出たあと、山肌に滞留した。滞留したまま煙突そのものを煙で覆ってしまうこともあった。これならまだムカデ煙道の方がよかった。みんなは直ぐにそう思った。条件の違ういろいろな日に確かめたがやはりだめだった。煙突は1か月で使用を中止にした。政府なんぞの命令など聞く方が間違っていたと、口の悪い人たちは言った。姿形から「ダルマ煙突」というものもいたが、「命令煙突」と陰口をたたくものも。多額の費用をかけて、ダルマ煙突は失敗だったのである。

そのころ角の作った気象観測所では、

地上の気象観測の他に新たに高層気流の気象調査をするべきとの意見が出た。日本ではまだやっていない気球による上層気流の観測である。気球を輸入して観測を開始した。これまでは大気の高い部分の気象、とくに風向きなどまるで分かっていなかったのである。それも場所によって、高さによって違う。ある一定の高さには気流が逆向きに流れる、逆転層があることもわかった。これまでも、高い煙突ではどうかという意見があったが、反対も多かった。高い煙突だと亜硫酸ガスを、より広範囲にまき散らすことになるのではないかと。ヨーロッパでは高い煙突を立てているという情報もあった。

多くの反対を押し切って、高い煙突を立てようと決断したのは、久原だった。高い煙突を建てることは、膨大な費用もかかる。ひょっとしたら会社の経営にまで、影響を与えかねない出費であったからだ。社運をかけての煙突である。

点で海拔はすでに481メートルあった。基礎工事だけで3か月かかった。そうしている間に、ヨーロッパで戦争が起った。オーストリアとセルビアの間で戦いは始まり、直ぐにヨーロッパ全土に広がった。第1次世界大戦である。銅の需要は大幅に増えた。そのころは、国策として鋳工業の発達推進が押し進められていたから、国民は少々の煤煙の犠牲は仕方がないという雰囲気も今よりはあった。工場閉鎖などは考えられなかったのである。

煙突のまわりに足場を組み、煙突の伸びるのと足場の伸びるのはほぼ平行に進んでいた。煙突は毎日1メートルずつ高くなった。大正4年3月1日、快晴の日に、大煙突は開通した。煙は神峯山の上のさらに156メートル上から吹き出した。わずか1年足らずで、延べ動員数3万6800人という人たちの努力の末完成したのだ。日立鉱山の社運をかけた大煙突だった。煙は空の高いところで、風に乗って流れていた。まずまずの成功だった。以後、麓の村々では煙被害が目に見えて少なくなった。

角弥太郎は農事試験場でできた杉の苗16万本を村人や社員に配布した。枯れた山々を蘇らすためであった。そして桜に関

しては、角はそれまでも、たくさん苗を村人や、社員に配った。オオシマザクラの種からの育苗が、自前でうまくいくようになる、その苗木にソメイヨシノの枝を接ぎ木して、ソメイヨシノも配った。日立鉱山の工場の周辺や、社宅、日立病院、学校、それに鉱山電車の沿線にも。その数はその後長い間に何万本にも達した。高い煙突ができて、煙害が少なくなっ

から、植樹はますます盛んになったともいえる。日立の工場関係以外の、学校や、公園にも配られた。神峯山周辺の山々も桜の植え付けがつけられた。日立の職員だけではなく、村人も、町の人間もみんな動員してつけられたのである。

農事試験場ではさまざまな植物の対煙状況が、長い間のデータと観測のもとに記録がとられた。その中のひとつが、次のデータである。

煙害に強い植物は、一番強いものが椿とヒサカキ、次がオオシマザクラとヤシヤブシ、ミズキ、コナラである。反対にもっとも弱い植物は、栗、つづいて赤檜、カラマツ、梅などであった。オオシマザクラとヤシヤブシが煙害に強いというのは、私は三宅島で聞いた。島の植物探索グループの人から、噴火した後の土壌に最初に生えてくるのはヤシヤブシだと。ヤシヤ

ブシはハンノキのことである。冬になっても最後まで、小さな松かさのような実の殻が残っている木である。

日立鉾山は、この後も伐採後の山林を次々に買取り、木を植えた。その面積は四百五十町歩、さまざまな木を植え、昭和6年ごろまでつづけたのである。その間にも御大典記念に、ソメイヨシノを県道沿いに植えた。作業はみな市民の勤勞奉仕、ボランティアである。企業と市民側とが一体になって木を植えたのだ。それらもみな会社側の角弥太郎と、被害者住民側の代表関右馬允との長年の付き合いの中で生れた。関右馬允も生涯をかけて公害に立ち向かった。ある時は住民から会社側とツルんで、裏で金をもらっているのではないかと疑われたこともあるくらいだ。彼の辛抱強い努力もまた評価しなければならぬ。なにしろ彼は自分の進路をあきらめて人生そのものをこの煙害に立ち向かうことにかけてのだから。

2017年4月「全国さくらシンポジウム in 日立」が行われた。毎年、「日本花の会」とその全国にある支部が、市町村の協力のもと実施している大会である。全国から桜に関わる人々や、マニアが参加する。そこで私も初めて、日立市は、その市内のいたるところに桜があるこ

とに驚いたのである。もちろんその背後にある山も桜で一杯なのだ。その桜は、日立鉾山の角弥太郎が中心になって植えたものであった。日立の駅前平和通という広い通りの大きな桜並木も、満開であった。日立製作所の守護神である街中の熊野神社にも行った。日立鉾山から日立製作所ができ、さまざまな関連企業もできて、大正に入ってから企業は多角化した。このとき製作所は、自分たちの企業の末永い発展を願って、もともとあった小さな熊野神社の敷地を整備し、新たに社殿を建て守護神として祀った。境内には桜を何本も植えた。大正7年であった。その桜が現在見事な花を咲かせていた。太い幹、苔むした灰色のでこぼこの幹が長い風雪を感じさせ、迫力持って、見る人の心に迫ってくる。これを見ると、手入れさえよければソメイヨシノの寿命は100年でもびくともしないことがわかる。

昭和9年、当時の日立製作所の工場長が、諏訪台の社宅の庭に、長い間工場責任者として、公害に真正面から取り組み、また膨大な数の桜を市内各地に植え続けたとして、角弥太郎の業績をたたえて、私費で「桜塚」を建てた。また桜の功勞者としては、農事試験場のその後の移転先である東海村石神農場にいた「苗木に

挿し木をする名人」の近藤権之丞がいる。あくまで現場で、たくさんさんの桜の苗木を作った人だ。影の功勞者ともいえる。

日立はその後桜を植え続けている。昭和38年からは、「日立さくらまつり」が始まり、平成に入ってもそれはつづいている。桜による街づくりだ。市民の会もあちこちにできて、桜の調査をし、病虫害の実態も調べている。

平成13年には、「さくらサミット in ひたち」を開催。毎年神峯公園にはたくさんさんの観光客が押し寄せている。また常磐線日立駅の次の駅である小木津駅の構内に生えていた1本の桜が、毎年1月から3月にかけて他の桜に先駆けて咲き、しかも花期が長い。ややピンクが濃いのので新種ではないかということになった。他所に移して育成し、2006年（平成18年）めでたく新種「日立紅寒桜」として品種登録された。今では市内各地で、日立固有の新品種として植えられている。ソメイヨシノのころはすでに花が散っていて、私は見損ねた。

いづれにしても、明治30年代後半から、日立は町として急激に大きくなり、同時に煙害と戦いながら、一方で、桜を植え続けた人々の長い歴史があった。日立市は本場の意味での桜の町である。

陶々俳壇

兼題「炬燵」「名」 席題「防」

- 冬うららかつて攀じりし岩仰ぐ 大内善一
 説教長き座主と酌み交ふ炬燵の間 (紅杓) 〃
 練炭炬燵にはふ古里吉野かな 戌亥芳秀
 老人の心和むや掘炬燵 〃
 ○病して残り少なき今年なり 上野京
 病窓はあひもかはらず師走かな 〃
 防災に右往左往で年暮れぬ 瀬崎明良
 猿湯場や防ぐすべなき雪やませ 〃
 ○うたたねを防ぐに難し炬燵かな 橋本紅杓
 炉の上の黒き大梁山眠る (善一) 〃
 ほんのりとぬくもりこもる炬燵かな 佐藤若杉
 居待月白帷子の父のかほ 〃
 妻と脚からめし炬燵速き日に (仁哉) 岡和水
 雪化粧森に腰かけ富士目覚む 〃
 ○湯に蜜柑浮かべ演歌を口遊ぶ 柳原仁哉
 ○懷に酒を忍ばせ紅葉狩 〃
 キャンドルの火やイヴに聴く聖歌隊 立原季莉子
 ○しもやけの指よりツェルニ三十番 (明良)(由紀子) 〃
 風邪の子の母こそ名医かもしれぬ (芳秀) 馬場由紀子
 嬉しくてやがて眠たき七五三 (季莉子)(和水) 〃

☆最高点 ○由紀子選 (一)各自特選

選後評

馬場由紀子

東雲やあかぎれの母想ふとき

季莉子

ふとした瞬間に母のことを思い出す。歳を重ねてみれば、あの頃の母の苦勞がようやく理解できる。もつと親孝行したかった。そんな作者のつぶやきが聞こえてくるようだ。

初音かなしげし轆轤の手を休め

善一

この轆轤は(けし)を作る轆轤ぞうだ。福島山深き作業場で轆轤を回しているところ初めて聞いた。しばし耳を傾けよう。

信州に初雪ありと娘の電話

若杉

信州に住む娘から、初雪を知らせる電話がきた。娘さんは雪のことを話しながらも親のことが心配でならないのだろう。

掘り炬燵戀を深むる二人かな

仁哉

炬燵の恋の句は連句でよく用いられるが、この句の眼目は「戀」である。旧字体を使うところによって恋する二人が、決して若くはないことを匂わせている。

名ばかりの亭主に燭の熱すぎる

明良

ご自分が家庭でどのような位置を占めているのか十分に理解されているようだ。亭主とは言つものの実権は奥様にあるのかもしれない。しかしそれこそ田舎の秘訣。

防災訓練終へ木枯の帰り道

芳秀

30年以内に首都直下型地震が起きる確率は70パーセントだ。そつだ。日本全国各地の起らないところはないらしい。だつたら防災を心がけるしかないだろう。

せせらぎと硫黄の宿の炬燵かな

紅杓

炬燵のある宿とはなかなか風情がある。かつては湯治場だったのかもしれない。良質の温泉にゆくり浸かつて身も心もリフレッシュされたことだろう。

「美少年」けふ発売のにごり酒

京

日本酒がお好きなつた。「美少年」は熊本の名酒である。ネーミングも良いが、それを心待ちにされていた作者が女性であることも面白い。

冬晴れや遠き日の夢「名を惜しめ」和水

「名を惜しめ」の描寫が日本には重くのしかかっている。もののふの世で殊の外用いられてきた。この言葉を戦と切り離してもつ一度思い直してもよいのかもしれない。

季節感

橋本紅杓

如月(2月)は、暦の上では立春である。もともとは「衣更着」という漢字で「寒さが厳しく重ね着をする(衣をさらに着る)季節」という説がある。しかし、風土が異なればその季節感も様々に変化する。大陸と島国とでは同じ季節でも気温・湿度など当然大きく異なるものである。

小学校(満州国新京市)の頃、学友が作った俳句に「紀元節初めて下がる氷柱(つらら)かな」というのがあった。紀元節(2月11日)は現在「建国記念の日」と改められている。現地では「つらら」がさがると春の兆しが見えた。真冬は零下30度まで下がり充分な防寒をしないと指先が痛くなるほどであるが、2月ともなれば零下15度ぐらいになり雪の質も粉雪から牡丹雪に変わり、日差しも春めき、雪が解け、温かく感じたものである。俳句は、その地方の風土、気候を含めたある瞬間の感想を思い起こさせる短文の詩であり記録性も優れている。四季がある故の我が国の発祥の詩であることが実感させられる。



編・訳 上松玲子

人道的も「」までくれば

河南省信陽市震雷山風景区に建てられた73棟の家が撤去されることになった。しかし、釈然としないのは地元政府が「政府が建設を奨励、支持し、過失があった」ことを理由に撤去の補償費用数千万人民元拠出を決めたことだ。一部では家主や住民の多くが政府の幹部や元幹部で、政府の様々な部門の職員の住むエリアだと報じられている。

当事者にとっては「人道的」な措置でも、政府が誤った財政

支出をしておきながら、誰も責任をとらないというのは感情的にも、道理や法律に照らしても納得できない。

「国有地に建てられた家屋の接収と補償条例」には「違法建築物、および許可期限をすぎたもの、臨時に建築されたものは補償のかぎりではない」と明確に規定されている。風景区に家を建てられないことは当時地元村民誰もが知っていたことだ。なぜ政府が建築を奨励、支持したのか。ゴーサインは誰が出したのか。何か裏があるのか。補償に充てられる数千万元の財政資金にはどんな「特別な配慮」があるのか。紀律検査監察部門の出番ではないだろうか。

『新華毎日電訊』2019年11月14日

誤植の多い原因は

国の規定では図書の誤字率は1万分の1以下が合格で、出版社は不合格の図書を回収しなければならぬ。しかし、主管部門がサンプル検査をしたところ大量の不合格書籍が見つかった。

ある教科書は誤字率が1万分の12・98だったという。

ある民営の図書販売会社では、2017年末から主管部門の図書の品質に対する管理が厳しくなったため、編集者を2人から6人に増やし、同時に校正にかける時間も3倍に増えたが、その要因は原稿の質が落ちたことにもあるという。編集中的である本の場合、著者はこれらをすでにインターネットで発表して40万人が民元得ており、本にしたところで3万元の原稿料と3、4万元の印税を受け取れるにすぎず、著者の再校正の意欲は落ちる。

ならば原稿料を上げればいいのかとは聞いても、皆難しい顔をする。ある出版社の経営者はいう。1980年代に主管部門が定めた価格基準の最大の問題点は字数を基準にしたことで、著者が著名な科学者でも普通の人でも厚さが同じなら内容に関わらず同じ価格のため、出版社は値引き競争を余儀なくされた。定価が自由化された今でも国内の大手出版社の主な収益源は学習参

考書だけで、その他の図書は定価販売が難しい。コストが1元上があれば出版を断念しないといかないレベルなのだ。

社内編集者や校正者の報酬も充分ではない。校正料は1千字あたり3・5元が業界では中の上のレベルで、速い校正者でも1日7、8万字の校正で月収換算6、7千元。これでは定着する人は少ない。さらに、「校正専門会社はコストを抑えるために、研修もなしに大学を卒業したばかりの新人を使うから、品質向上は期待できない」という。

『北京青年報』2019年11月29日

守れるか長江の魚

長江の天然魚の漁獲量は1954年の42万7千トンだった。今は10万トン足らず、全国の淡水水産物のわずか0・15%に減っている。春季禁漁を実施して17年経過した今年1月、国家は2020年1月1日から長江流域の重点水域を10年間全面禁漁とすることを決定した。

著名な魚類生物学者の曹文宣

氏は早くから10年禁漁を提唱してきた。彼は長きにわたり流域を調査研究する中、沿岸で行われる、魚の大小を問わず殺してしまう電気網による漁だけは容認できないと考えた。

2016年に農業部は禁漁の範囲も時間も拡大し、ある程度魚類の繁殖の保護につながった。しかし短い休業の後、過度あるいは違法な漁が猛威を振るい、春の禁漁の意義は忘れ去られる。そこで曹氏は2006年から10年間全面禁漁にすべきと訴えてきた。長江の主な商品魚の生育期間は3年から4年なので、2、3世代の繁殖が望まれる。

さらに禁漁は漁業者のためでもある。文盲、住血吸虫症患者、子沢山、貧困と形容された船に住む漁民の生活を報道で知り、曹氏の禁漁への思いは固まった。

世界自然基金会中国淡水プロジェクトの任文偉主任は10年禁漁を契機に産業転換するのも脱貧困の1つの方法だという。

しかし、実行には困難が予想される。禁漁は11万艘の漁船と

28万人の漁師に関わる問題なのだ。安徽省馬鞍山市の漁政警察大隊の夏徳軍副大隊長は前回の禁漁期にも夜間の密漁の取締りの難しさに頭を痛めた。

長江流域漁政監督管理弁公室の馬毅主任は、禁漁期間は同弁公室も各級の政府に法の執行を強化すべく、人員配置やドローンや監視カメラなどの装備の充実を指導していくことと、管轄の枠を超えて連携して取締りに臨むことを表明している。

『中国新聞週刊』2019年12月10日

若者の孤独とペット

ある調査によると、2019年に中国人がペットにかけた金額は2020億人民元にもなる見込みで、昨年比19%の増加だ。中国の犬猫の頭数は今や世界一である。都市部での飼い主のうち半分が90年以降に生まれた世代、またその半分が独身だ。

『2019年中国ペット産業白書』によれば、飼い主の59・1%がペットを子どもとみなしている。プログラマーの王さんは杭

州市で働いて2年になる。1年前の雨の夜、帰宅する彼を追いかけてきたびしょ濡れの野良猫が今彼のSNSのアイコンをすべて占める愛猫チャリード。

大学卒業して1年の蘭さんは社会人3か月でブリティッシュショートヘアの猫を飼い始め、出勤中寂しからうと数か月前も1匹迎えた。今年の「双十二」（11月11日独身の日）には2匹のために2千元近く使った。猫砂、ケア用品など選り出せばあつという間に4桁の金額になる。

自分にお金はかけないが、猫には惜しまない。双十二の某ネットショッピングサイトのペット関連の売り上げは前年同日比2・3倍にものぼったという。

夢を抱いて都会にやってきた多くの若者が「金も恋人もない」という直視したくない辛い現実を体験した後、無力感の中でペットに癒しを求めるのは想像に難くない。人間関係に疲れても、ペットと触れ合い喜びや感情を取り戻す。SNSでペットの写真を発信して、社会と繋がり、

散歩で「犬友」と知り合う。

ペットの平均医療費用は1回500元前後、診断や検査でも100元以上、手術となれば5000元以上かかる。

今年の双十二セールでよく売れた輸入商品中、猫のフードが人間の赤ちゃんの粉ミルクを抑えて1位に輝いた。銘柄別では売上上位5位の中にペットフードのブランドが2つも含まれている。さらにペット用サプリメントの需要が伸びている。

今年7月に生まれたクロイン猫「大蒜」に25万元払った飼い主は全く後悔はないと断言している。このことは中国のペット市場にまだまだ開拓の余地があることを物語っている。

前述の白書によれば46・9%の飼い主が、ペットを連れての外出が難しいと答えている。それによりペット入店可の飲食店、ペット用のメニューまで用意したチェーン店も現れた。理髪・シャンプー、記念撮影、エステまで、擬人化消費も過熱している。

『中国新聞ネット』2019年12月10日

カホ会通信

◆12月度第9回理事会の議題（12月19日開催）

*今月は、下記内容で審議を行った。

●確認事項

11月21日開催の第8回理事会議事録（案）が確認された。

●決議事項

特になし。

●討議・報告事項

1、資金繰りについて

2、各常任委員会報告

3、事務局報告

4、会長談話

◆広報誌「善隣」について

「善隣」は現在32ページで毎月発行されていて、令和2年2月で512号・通巻で779号の長い歴史を持つ広報誌と言える（参考までに、（一社）交詢社の「交詢雑誌」が令和2年1月で656号、（一社）如水会の「如水会々報」が同年1月で1063号）。現在、正会員164人はもちろん、協力会員、賛助会員、誌友、ほか寄贈先を含めておよそ340人をつなぐパイ役となっている。

「善隣」は内容も豊富で興味深く、過去の「善隣月報」の時代も含めて、先輩諸氏の活動ぶりが生き生きと窺え、今でも参考になる記事が随所に見受けられ、往時の協会の歩みを手取るように知ることができる、まさに『宝の山』である。

会員の皆さんも、時間があれば事務局に申し込んで、所定の場所で見覧し、過去の協会活動へタイムスリップしてみるのはいかがでしょう（事務局長 成多芳秀）

同好会だより

〈謡曲会〉

2月18日（新年会）実施予定曲目

曲目	役 割	地頭
土蜘蛛	トモワキ澤村（頼光） 神保（胡蝶） 宮下	松木先生
田 村	シテ澤村 ワキ村瀬	松木先生
天 鼓	シテ宮下 ワキ神保	松木先生

みんなの写真館

美麗島駅（表紙）

美麗島駅（メイリードオオキ、びれいとつえき）は台湾高雄で唯一のMRT乗換駅で、世界でも美しいと評価されている。アメリカのニューズサイト PolicyMic が公表した「ニューヨークが夢見る世界で最も美しい地下鉄駅ランキング」で2位に選ばれた地下鉄駅。構内中央に2本の支柱と4500枚のステンドグラスで彩られた「光之穹頂（光のドーム）」があり圧巻。ステンドグラスは4年半もの歳月をかけ制作され、誕生（水）・成長（土）・栄光（光）・破滅（火）の4つをテーマとしている。サイズは直径30mもありステンドグラスアートとしては世界最大級の規模。普通に見ているだけで充分美しいステンドグラスのドームだが、幻想的な光のショーも行われ、さらに楽しませてくれる。一昨年と昨年、2回ともこの駅を訪れた。（姜晋如）

甲州枯露柿（表4上）

甲府市の実家の「干柿」です。山梨県特産の「甲州百奴柿」です。皮をむき、陽に当て、良く揉み、寒風にさらすと実につまい「甲州枯露柿」ができます。柿はいと宅の樹齢60年の「渋柿」です。この「古木」が良いのです。

もう30年ほど前から実家の義姉（85歳）が手作りしています。その丹精こめた「枯露柿」作りは実家の冬の「風物詩」です。出荷が近づくと12月は柿を竿から下ろし、藁の上に寝かせ「果粉」を吹かせ、形を整えます。ほどよい柔らかさにするため一個一個心をこめて作るこの時期は、深夜までの「夜なべ」が続きます。大変な手仕事のため、残念ながら受け継ぐ人がおりません。少しでも続けてほしいので、義姉には元気に長生きしてほしいと「切」に思います。（雨宮 武）

令和元年度新会員歓迎懇親会

（表4下）

2020年2月の行事予定

- 4日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 5日(水) 13:00 俳句会
兼題「ふらここ、四」及び当季雑詠
- 6日(木) 14:00 ○公開フォーラム
『スーホの白い馬』の真実
ミンガド・ボラグ氏(関西学院大学非常勤講師)
- 13日(木) 14:00 ○公開フォーラム
「日本と中国そして私」(仮題)
小野寺直氏(国体南朝111代当主、四川大学名誉教授)
- 18日(火) 14:00 謡曲会(新年会)
- 20日(木) 18:30 ◎公開アジア研究懇話会
「中国実務法の現状と今後」
高木喜孝氏(弁護士、日中法律家交流協会理事長)
- 26日(水) 14:00 公開「善隣古海塾」
「戦争の時代、そして満洲国を振り返る」第16回
塾長:古海建一氏(前当会会長、当会顧問)
- 27日(木) 14:00 ◎公開アジア研究懇話会
「戦後日本の経済復興と賠償問題
一東アジア地域統合と在外財産を中心に」
浅野豊美氏(早稲田大学政治経済学術院教授、早大和解学研究所所長)
- 28日(金) 16:00 公開「善隣中国塾」シリーズ3 第6回
テキスト:『一带一路からユーラシア新世紀の道』(日本評論社)
塾長:矢吹晋氏(横浜市立大学名誉教授、当会学術顧問)

2月の会議予定

6日(木) 16:00	講演委員会	18日(火) 14:00	国際交流委員会
6日(木) 16:00	広報委員会	20日(木) 14:00	理事会(第11回)
10日(月) 10:30	環境委員会	26日(水) 14:00	東北委員会
12日(水) 14:00	財政委員会	28日(金) 13:00	諮問会(第4回)

※公開イベントへの会員外一般聴講者の参加費は、◎印:1000円、○印:500円、無印:無料です。
※下線は通常日程に変更あり。

【2020年3月第1週の講演予定】

- 2日(月) 14:00 《会員限定》特別試写会
映画『日本人の忘れものーフィリピンと中国の残留邦人』
解説:河合弘之氏(弁護士、当映画企画・製作、当会会員)



みんなの 写真館

